

太田市内遺跡 2

——平成17年度調査——

2007

群馬県太田市教育委員会

序

平成の合併によって誕生した太田市は、この東毛の地において21万市民を有する大都市へと変貌を遂げました。その市域には北に八王子丘陵、東側には金山がそびえ立ち、西から南にかけては平坦な土地が利根川にまで広がっています。この広大な土地は、かつて新田義貞が活躍した中世に、新田荘という荘園を営んでいた領域とほぼ同じ範囲であり、事実上国指定史跡となっていた「新田荘遺跡」も一つにまとめることができました。

市内に所在する代表的な文化財は、縄文時代の耳飾りで有名な藪塚地域の「石之塔遺跡」、東日本では最大と言われる太田地域の「天神山古墳」、古代主要交通路として知られている新田地域から太田地域に直線的に延びた推定東山道駅路、また、近世では日光東照宮奥社から移築された尾島地域の「東照宮拝殿」に代表される建物群など、さらに数多く所在することとなりました。ですから、市内における遺跡数も少なくありません。このような現状をふまえて当教育委員会では、遺跡分布地図の整備も含めて、その取り扱いについて検討し、市内における開発行為については、市内遺跡発掘調査として事前の試掘・立会い・確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護を図っていくこととなりました。

本書は、合併して最初に実施した市内遺跡発掘調査の成果をまとめたものです。新しい「太田市」としての埋蔵文化財に対する理解や保護、また地域の歴史を知る資料としてご活用いただければ幸いです。

おわりに、調査に当たり発掘調査にご協力いただきました方々、また寒暖の中、発掘調査に参加していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

平成19年 3 月

太田市教育委員会

教育長 相 澤 邦 衛

例 言

- 1 本報告書は、太田市教育委員会が文化財保存事業費国庫補助金と県費補助金を得て実施した「市内遺跡発掘調査」をまとめた報告書である。
- 2 発掘調査は、太田市教育委員会が平成17年度に実施し、整理作業は平成18年度に実施した。
- 3 試掘調査において、遺構が確認された主な遺跡についてはその調査概要を掲載し、その他に調査を実施したすべての遺跡について、調査地点の位置と概要を示した。
- 4 平成17年度における調査主体者ならびに事務局は以下の通りである。

調査主体者 太田市教育委員会 教育長 相澤 邦衛

調査担当者 太田市教育委員会 教育部 文化財課 埋蔵文化財係

埋蔵文化財係長 須永 光一、係長代理 糸井雅之、天笠洋一、主任 小宮 豪、中村 渉

調査事務局 太田市教育委員会 教育部長 岡島 幸雄、教育副部長 諏訪和雄

文化財課長 宮田 毅、課長補佐 手島昌代、長 明一、文化財保護係長 岡田定夫、史跡整備係長 高木武史、主任 小宮俊久、西村由美子、神保晴美、板垣祥子、島田孝雄、田島幸一、金澤 誠、新井喜昭、横山寛信、伏島 徹、主事 荒井文夫、主事補 相山智彦、嘱託 鹿山くみ子、佐藤信孝、臨時 石野奈央子、金谷やよい

- 5 平成18年度における整理作業の事務局は以下の通りである。

調査主体者 太田市教育委員会 教育長 相澤 邦衛

調査担当者 太田市教育委員会 教育部 文化財課 埋蔵文化財係

埋蔵文化財係長 須永 光一、係長代理 小宮 豪

調査事務局 太田市教育委員会 教育部長 岡島 幸雄、教育副部長 諏訪和雄

文化財課長 宮田 毅、課長補佐 手島昌代、荒井久志、文化財保護係長 小暮英司、史跡整備係長 高木武史、係長代理 原口芳典、主任 荒井文夫、小宮俊久、西村由美子、神保晴美、田島幸一、金澤 誠、新井喜昭、高橋之雄、空井 智、中村 渉、伏島 徹、遠坂純伸、関根圭介、嘱託 鹿山くみ子、佐藤信孝

- 6 本稿の編集・執筆は、小宮豪と須永光一が担当した。
- 7 本書に掲載した遺構の写真は調査担当者が撮影した。
- 8 本書に掲載した地図は太田市都市計画図を用いた。
- 9 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の方々、機関より御教授、御協力を賜った。記して感謝を表したい（アイウエオ順、敬称略）。

群馬県教育委員会文化課埋蔵文化財グループ、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 10 本書に係わる資料、遺物は太田市教育委員会で保管している。
- 11 発掘調査ならびに整理作業に携わった作業員は、下記のとおりである。(敬称略、順不同)

発掘調査 保坂あき子、福島定夫、小此木克己、福島清野、糸井きみ子

整理作業 高山きく子、毛呂小夜子、宮下やす江、飯田光子、中村久乃、大坪春美、木村純子、戸黒ひろみ、野村佳子、長よし江、金子雅子、相澤玲子、栗原清枝

凡 例

- 1 遺構平面図、遺構配置図等に示す北は断りのない限り座標北を意味する。
- 2 第5章の調査地点位置図の縮尺は1/5000、遺跡の範囲図の縮尺は1/10000とし、それ以外の縮尺についてはスケールを付した。

目 次

序 文

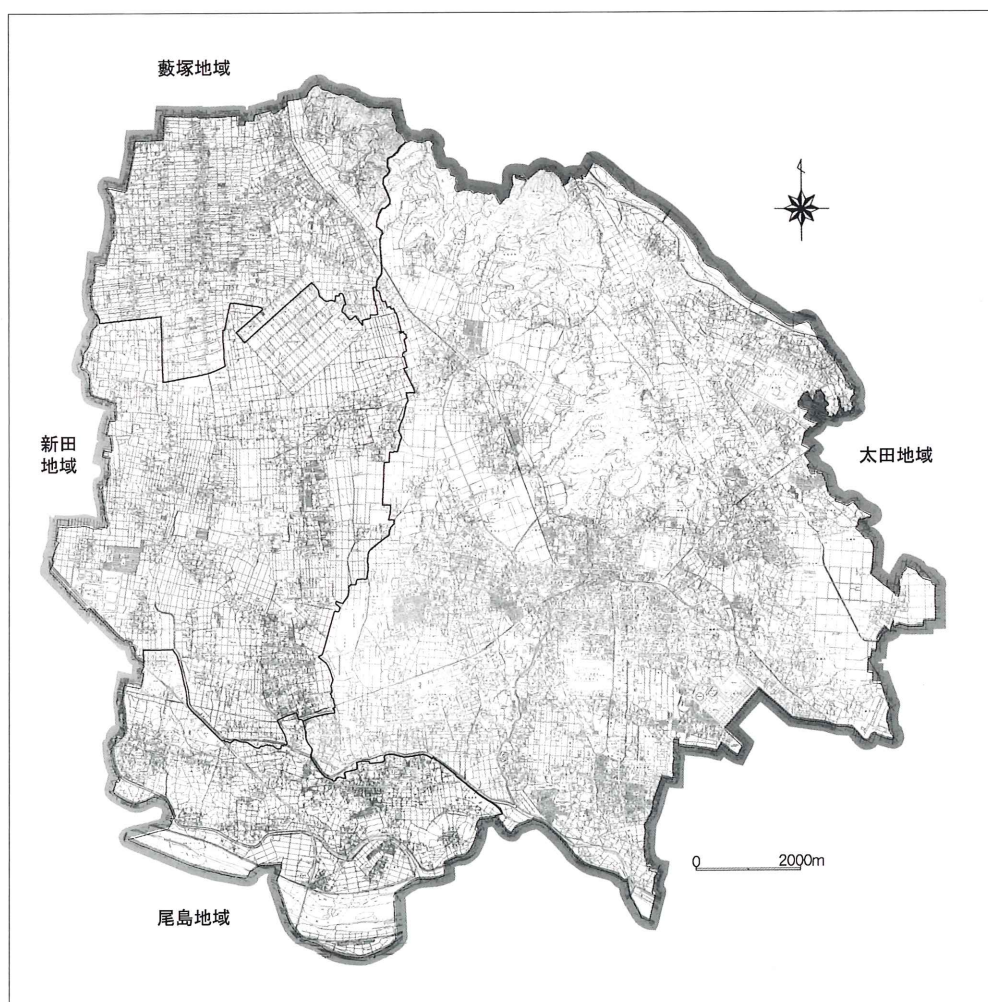
例 言

凡 例

第1章 調査に至る経過	1
第2章 調査の方法および経過	2
第3章 遺跡の位置と歴史的環境	5
第4章 調査を実施した遺跡の概要	8
1. 向野遺跡 (No.1)	8
2. 重殿水源関連遺跡 (No.25)	10
第5章 試掘・確認調査の概要	12
第6章 ま と め	37

第1章 調査に至る経緯

太田市は、平成17年3月28日に、旧太田市と旧新田町、旧尾島町、旧藪塚町の1市3町の合併によって人口が21万人を超え、面積も176.49km²となる大都市へと変貌しました。これに伴い各市町の文化財担当部門も太田市教育委員会文化財課として再編成されました。合併前の各市町村においては、いずれも「市内遺跡」や「町内遺跡」の名称のもとに、国庫補助事業として遺跡の試掘・確認・本調査を実施していましたが、それぞれの組織ごとに調査方法や調査体制等の違いがあったため、合併前よりその取扱いについて協議・検討を実施し、市内遺跡発掘調査としての統一性を図ってきました。その結果、公共事業に関しては前年度に係各課に事業内容についての照会を行い、遺跡に該当する箇所については新年度事業の試掘調査対象とし、民間開発については事前問い合わせの窓口を通して事業照会を行い、工事着手前に立会・試掘調査が実施できるように文化財保護の体制を統一しました。以上のような経緯より、「新」太田市においても遺跡を保護していくために、国庫補助や県費補助を受け「市内遺跡発掘調査」として事前の試掘・確認・本調査を実施することで、開発事業との調整を図ることとしました。



太田市の全体図

第2章 調査の方法および経過

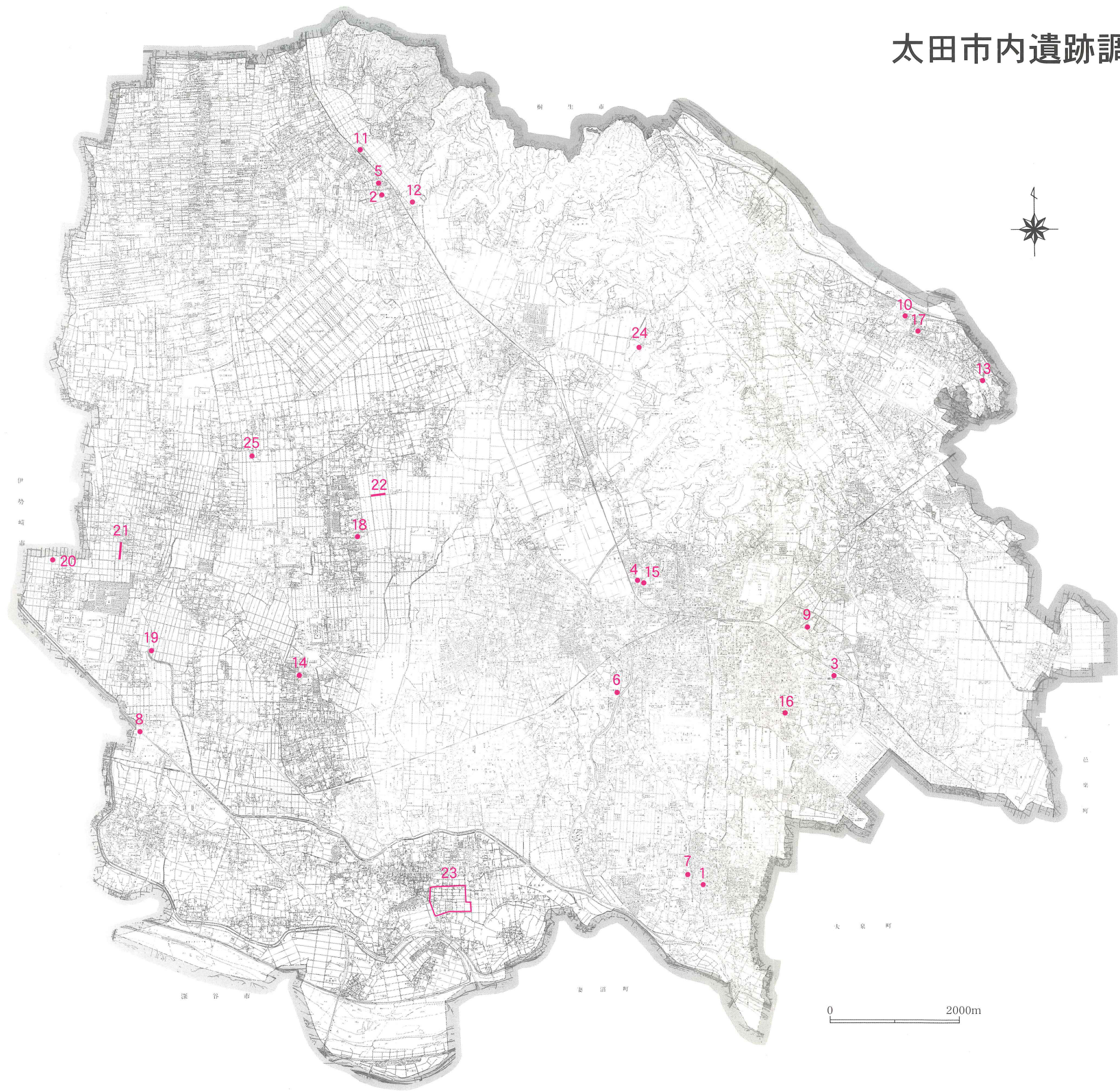
前述したとおり、公共・民間の開発については市内遺跡発掘調査の対象とし、開発の事前申請時に太田市内の遺跡地図をもとに遺跡地内であるかの判断を実施し、遺跡地内に該当する場合は開発事業者による事業内容について確認を行った後、試掘調査が必要な場合については試掘調査依頼書の提出を受けて調査を実施している。なお、平成17年度の遺跡地の照合に当たっては、各旧市町の遺跡分布地図をもとに実施し、新太田市の遺跡分布地図については、平行して市単独事業として作成を進めてきた。

試掘調査の内容は、対象となる土地の地形・形状や開発計画を考慮してトレンチを設定し、遺構確認面まで掘削して遺構の所在を確認している。確認された遺構については、平面形を実測し、写真撮影を行っている。また、個人住宅や鉄塔建設等の狭い面積の開発においても、地下に影響を及ぼす工事については試掘調査の対象とし、遺構が確認された場合については本調査の対象としている。(個人住宅における本調査は市内遺跡で対応している)

太田市内遺跡平成17年度調査地一覧表

No.	所在地	遺跡名	開発原因	調査面積 (開発面積)	調査期間	調査結果	備考
1	太田市高林東町2386番1他	ムカイノイセキ 向野遺跡	集合住宅	60m ² (1,745)	平17.5.27	竪穴住居6軒	確認調査で終了
2	太田市藪塚町2974番1他	ニシノニシイセキ 西野西遺跡	土地分譲	100m ² (2,463)	平17.6.7	発見遺構・遺物なし。	
3	太田市内ヶ島町1155番1	ナカジマイセキ 中島遺跡	土地分譲	80m ² (2,233)	平17.6.10	発見遺構・遺物なし。	
4	太田市八幡町19番8他	ジョウノウチイセキ 城ノ内遺跡	土地分譲	120m ² (3,937)	平17.6.17	土坑2基、溝1条。遺物なし。	確認調査で終了
5	太田市藪塚町2952番8	ニシノニシイセキ 西野西遺跡	土地分譲	32m ² (1,923)	平17.7.5	発見遺構・遺物なし。	
6	太田市藤阿久町26番1	カワタボイセキ 川窪遺跡	学校建設	50m ² (1,722)	平17.8.1～5	発見遺構・遺物なし。	
7	太田市高林南町736番	タカバヤシカンゴイセキ 高林本郷遺跡	集合住宅	27m ² (823)	平17.7.29	発見遺構・遺物なし。	
8	太田市世良田町2879番2	コスミダマエイセキ 小角田前遺跡	都市ガス施設	28m ² (100)	平17.8.1	発見遺構・遺物なし。	
9	太田市内ヶ島町1626番2	テンジヤマコフン 天神山古墳(中堤帯)	個人住宅	28m ² (447)	平17.9.5	発見遺構・遺物なし。	
10	太田市市場町1139番12他	コサヤイジジョウワ 国済寺城跡	土地分譲	60m ² (3,052)	平17.8.30	溝1条	確認調査で終了
11	太田市藪塚町388番1他	ハチコクイセキ 八石遺跡	集合住宅	60m ² (1,406)	平17.8.24	発見遺構・遺物なし。	
12	太田市藪塚町2693番	ニシノトビガシカ 西野東中遺跡	事務所建設	35m ² (1,226)	平17.10.21	発見遺構・遺物なし。	
13	太田市高瀬町156番他	タカゼマエハラ 高瀬前原遺跡	土地区画整理	50m ² (5,350)	平17.10.17	発見遺構・遺物なし。	
14	太田市新田木崎町1393番	イチツウダ 一町田・堀之内遺跡	土地分譲	40m ² (788)	平17.10.7	発見遺構・遺物なし。	
15	太田市八幡町21番5	ジョウノウチイセキ 城ノ内遺跡	土地分譲	45m ² (971)	平17.10.13	発見遺構・遺物なし。	
16	太田市飯塚町805番1	イブツカコフン 飯塚古墳群	集合住宅	30m ² (752)	平17.10.14	溝1条	確認調査で終了
17	太田市市場町1074番1他	ドウハツイセキ 道原遺跡	土地分譲	127m ² (3,520)	平17.10.26	発見遺構・遺物なし。	
18	太田市新田村田町512番2他	ナカムラ 中村田遺跡	道路建設	20m ² (893)	平17.12.8	発見遺構・遺物なし。	
19	太田市新田下田中町344番1他	ゲンロクダ 源六堰遺跡	道路建設	60m ² (1,034)	平17.12.9	発見遺構・遺物なし。	
20	太田市新田花香塚町495番他	ナシノキイセキ 梨子木遺跡	道路建設	50m ² (540)	平17.12.14	発見遺構・遺物なし。	
21	太田市新田上田中町426番1他	クワキジマイセキ 桑木島遺跡	道路建設	170m ² (1,300)	平17.12.15-16	発見遺構・遺物なし。	
22	太田市新田村田町964番他	ナカヤシキリ 中屋敷東遺跡	道路建設	180m ² (6,200)	平17.12.19-20	発見遺構・遺物なし。	
23	太田市堀口町268番2他	トウチ 東部地区遺跡群	土地区画整理	115m ² (892)	平17.12.16-22	土坑1基、地震噴砂・地割れ	確認調査で終了
24	太田市強戸町2033番16他	テラヤマコフン 寺山古墳	道路建設	135m ² (2,066)	平18.1.27-31	発見遺構・遺物なし。	
25	太田市新田市野井町1462番2他	ジュウドク 重殿水源関連遺跡	公園建設	220m ² (2,383)	平18.1.23-2.27	溝5条、井戸1基、縄文、須恵器、陶磁器片、古銭	確認調査で終了

太田市内遺跡調査地位置図



平成 17 年度調査地一覧表

- 1 向野遺跡
- 2 西野西遺跡
- 3 中島遺跡
- 4 城ノ内遺跡
- 5 西野西遺跡
- 6 川窪遺跡
- 7 高林本郷遺跡
- 8 小角田前遺跡
- 9 天神山古墳（中堤帯）
- 10 国済寺城跡
- 11 八石遺跡
- 12 西野東中遺跡
- 13 高瀬前原遺跡
- 14 一町田・堀之内遺跡
- 15 城ノ内遺跡
- 16 飯塚古墳群
- 17 道原遺跡
- 18 中村田遺跡
- 19 源六堰遺跡
- 20 梨子木遺跡
- 21 桑木島遺跡
- 22 中屋敷東遺跡
- 23 東部地区遺跡群
- 24 寺山古墳
- 25 重殿水源関連遺跡

整理作業においては、これらの調査より出土した遺物の整理や図面の整理を実施し、翌年度にその成果を「太田市内遺跡」としてまとめて調査報告書を刊行している。平成17年度の整理作業は、旧尾島町と旧藪塚町の13～16年度に実施した調査について整理を行い、「太田市内遺跡1」として報告書を刊行した。

平成17年度の調査 試掘調査を実施した25箇所における開発事業の内訳は、民間事業16件、公共事業8件、範囲確認調査1件を数える。民間開発事業のうち2件は組合の土地区画整理事業に伴うもので、その他12件は開発事業に伴うものであった。公共事業は、学校建設が1件で、残りはすべて道路建設工事であり、いずれも包蔵地内の申請であった。範囲確認調査としては、重要遺跡等の範囲確認調査を行っており、平成17年度では、国指定史跡「新田荘遺跡江田館跡」の内容確認調査（今回の報告には含まれていない）や、今回報告した「新田荘遺跡重殿水源」近接地における水路確認調査等を実施した。

以上、実施した調査地の概要について一覧表にまとめ、その位置を同番号で調査区位置図として図上に示した。調査によって得られた資料の整理は、平成18年度に実施し、太田市教育委員会にて保管している。

第3章 遺跡の位置と歴史的環境

太田市は北東部に八王子丘陵があり、それが南東方向に連なっている。また、その南側には金山がそびえ立ち、市域全域を望むことができる。八王子丘陵の西側の藪塚地域には大間々扇状地が広がり、その端部に位置する新田地域からは湧水が流れ出し、河川を形成し古くより生活の水脈として利用されてきた。市中央部には広大な平地部分が広がり、台地や沖積地を形成している。利根川と面している南西部の尾島地域は、旧利根川の流路にあたる部分であり、遺跡が泥流によって覆われている区域が広がっている。旧1市3町の範囲については、現在の所、太田地域、新田地域、尾島地域、藪塚地域の4地域に分けられているため、各地域ごとの遺跡数と時代区分について一覧表にまとめてみた(地域別遺跡数一覧表)。各地区の遺跡数の合計を見ると、太田市全体としては965の遺跡が所在しており、これらを時代区分ごとに分け、数の多い順に並べると古墳時代が圧倒的に多く、ついで奈良・平安時代、中世、縄文時代、近世、弥生時代、旧石器時代となっていることがわかる。今回の調査地点でも古墳時代の遺跡が19を占め、奈良時代が12、平安時代が11、縄文時代・中世が7、弥生時代が6、近世が3、旧石器2であった。

以下、調査した遺跡の位置と歴史的環境について一覧表にまとめてみた。

地域 時代区分	太田地域	新田地域	尾島地域	藪塚地域	時代区分数	時代区分数の順序		
旧石器時代	16	12	0	3	31	1	古墳時代	632
縄文時代	51	48	4	35	138	2	中世	181
弥生時代	13	12	7	10	42	3	平安時代	178
古墳時代	340	169	84	39	632	4	奈良時代	158
奈良時代	78	49	16	15	158	5	縄文時代	138
平安時代	97	42	21	18	178	6	近世	101
中世	61	62	45	13	181	7	弥生時代	42
近世	12	57	26	6	101	8	旧石器時代	31
合計	668	451	203	139	1,461			
遺跡数合計	453	330	117	65	965			



平成17年度に試掘調査を実施した遺跡の概要

番号	遺 跡 名	遺跡番号 時代区分	位 置 お よ び 歴 史 的 環 境	調 査 歴
1	むかいの 向野遺跡	T0231 古墳・奈良・ 平安	太田地域の沢野地区に位置する。市内でも南東部にあたり、南側では利根川と対面する。遺跡の時代区分は、古墳時代から奈良・平安時代で種類は集落跡。市教委において発掘調査を実施しており、奈良・平安時代の住居跡等が検出されている。埋蔵文化財調査年報6（平成8年）	4回 市教委
2 5	にしのにし 西野西遺跡	Y0051 縄文	藪塚地域の藪塚東部地区に位置する。市内でも北西部にあたり、北側ではみどり市と接する。遺跡の時代区分は、縄文時代で種類は散布地。調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
3	なかじま 中島遺跡	T0204 古墳・奈良	太田地域の九合地区に位置する。市内でも南東部にあたり、南側では大泉町と接する。遺跡の時代区分は、古墳時代から奈良・平安時代が主体的で種類は散布地。調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
4 15	じょうのうち 城ノ内遺跡	T0193 古墳・中世	太田地域の太田地区に位置する。市内でも中央よりやや東側にあたる。遺跡の時代区分は、古墳・中世で種類は集落・城館跡。市教委において発掘調査を実施しており、古墳時代の住居跡等が検出されている。埋蔵文化財調査年報3（平成5年）	1回 市教委
6	かわくぼ 川窪遺跡	T0142 古墳～平安	太田地域の宝泉地区に位置する。市内でも中央部やや南側にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代から平安時代で種類は集落跡。市教委において発掘調査を実施しており、古墳時代・平安時代の住居跡等が検出されている。川窪遺跡調査報告書（昭45）・埋蔵文化財発掘調査年報4・市内遺跡IX	6回 市教委

7	たかばやしほんごう 高林本郷遺跡	T0452 古墳	太田地域の沢野地区に位置する。市内でも南東部にあたり、南側では利根川と対面する。散布地・古墳遺跡の時代区分は古墳時代で種類は散布地。調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
8	こすみだまえ 小角田前遺跡	J0003 縄文・古墳・奈良・平安・中世	尾島地域の世良田地区に位置する。市内でも南西部にあたり、西側では伊勢崎市と接し、南側では利根川に面する。遺跡の時代区分は、古墳時代から奈良・平安時代で種類は集落跡。群馬県教委・遺跡調査会・群馬県埋蔵文化財調査事業団で発掘調査を実施しており、縄文時代草創期の土器や石器をはじめ、古墳時代から平安時代の住居跡が多数検出されている。小角田前遺跡（昭和61群馬県教委）・小角田前遺跡Ⅰ・Ⅱ遺跡（平成7群馬県埋蔵文化財事業団）・尾島町誌上巻（平成5）	3回 群馬県教委 遺跡調査会 調査事業団
9	てんじんやまこふん 天神山古墳 （中堤帯）	T0008 古墳	太田地域の九合地区に位置する。市内でも南東部にあたり、南側では大泉町と接する。遺跡の時代区分は古墳時代で昭和16年1月27日に国指定史跡となっている。市教委において発掘調査を実施しており、指定地外の中堤帯を含む二重の堀までの範囲について確認している。史跡天神山古墳外堀発掘調査報告書（昭和45）・天神山古墳外堀発掘調査概報（昭和57.3）・天神山古墳外堀A階塚－範囲確認調査－（平成2）・埋蔵文化財調査年報（平成3年・平成5年）・市内遺跡X（平成7年）・天神山古墳外堀発掘調査報告書（平成11年）	12回 市教委
10	こくさいじょうあと 国済寺城跡	T0174 中世	太田地域の毛里田地区に位置する。市内でも北東部にあたり、東側では渡良瀬川に面する。遺跡の時代区分は、中世で種類は城館跡。群馬県埋蔵文化財調査事業団において発掘調査を実施している。	1回 調査事業団
11	はちこく 八石遺跡	Y0047 縄文～平安	藪塚地域の藪塚東部地区に位置する。市内でも北西部にあたり、北側ではみどり市と接する。遺跡の時代区分は、縄文時代から平安時代で種類は散布地・古墳。調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
12	にしのひがしなか 西野東中遺跡	Y0049 縄文～平安	藪塚地域の藪塚東部地区に位置する。市内でも北西部にあたり、北側ではみどり市と接する。遺跡の時代区分は、縄文時代から平安時代で種類は散布地・古墳。調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
13	たかぜまえばら 高瀬前原遺跡	T0361 縄文	太田地域の毛里田地区に位置する。市内でも北東部にあたり、東側では渡良瀬川に面する。遺跡の時代区分は、縄文時代で種類は散布地。調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
14	いっちょうだ・ぼりのうち 一町田・堀之内遺跡	N0088 古墳～中世	新田地域の木崎地区に位置する。市内でも南東部にあたり、尾島地域と接する。遺跡の時代区分は、古墳時代から中世までで種類は集落跡。が主体的で、新田町教委において発掘調査を実施しており、古墳時代の住居跡等が検出されている。第26集新田町内遺跡Ⅲ（平成12）・第32集新田町内遺跡Ⅴ（平成14）	4回 新田町教委
16	いいつかこふんぐん 飯塚古墳群	T0014 古墳	太田地域の九合地区に位置する。市内でも南東部にあたり、南側では大泉町と接する。遺跡の時代区分は、古墳時代で種類としては集落と古墳。市教委において発掘調査を実施しており、方形周溝墓、方墳、円墳等が検出されている。埋蔵文化財調査年報1（平成3年）	4回 市教委
17	どうばら 道原遺跡	T0123 旧石器～古墳	太田地域の毛里田地区に位置する。市内でも北東部にあたり、東側では渡良瀬川に面する。遺跡の時代区分は、旧石器時代から古墳時代で種類は集落と古墳。県教委と市教委において発掘調査を実施しており、縄文時代の土坑や古墳時代・平安時代の住居跡等が検出されている。堂原遺跡報告書（昭和45）・堂原遺跡E地点緊急発掘調査概報（昭和47）・堂原遺跡発掘調査報告書（昭和48）・堂原遺跡発掘調査概報（昭和60）・埋蔵文化財調査年報2・3・4（平成4・5・6年）・市内遺跡XⅦ（第Ⅲ次）（平成13）	13回 県教委1 市教委12
18	なかむらた 中村田遺跡	N0064 古墳～中世	新田地域の生品地区に位置する。市内でも中央部よりやや西側にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代から中世で種類は集落跡。新田町教委において発掘調査を実施しており、古墳～平安時代の住居跡や掘立柱建物跡、中世の備蓄銭などが検出されている。中屋敷・中村田遺跡（平成9）	1回 新田町教委
19	げんろくぜき 源六堰遺跡	N0072 縄文～平安	新田地域の綿打地区に位置する。市内でも西端部にあたり、西側では伊勢崎市と接する。遺跡の時代区分は、縄文時代から平安時代で種類は集落。新田町教委において発掘調査を実施しており、奈良時代の住居跡等が検出されている。（新田町誌掲載）・新田町内遺跡Ⅱ（平成12）	2回 新田町教委
20	なしのき 梨子木遺跡	N0035 旧石器～古墳	新田地域の綿打地区に位置する。市内でも西端部にあたり、西側では伊勢崎市と接する。遺跡の時代区分は、旧石器時代から古墳時代で種類は集落。新田町教委において発掘調査を実施しており、縄文時代の燃糸文式土器片や弥生時代の住居跡等が検出されている。（新田町誌掲載）	2回 新田町教委
21	くわきじま 桑木島遺跡	N0038 古墳～近世	新田地域の綿打地区に位置する。市内でも西端部にあたり、西側では伊勢崎市と接する。遺跡の時代区分は、古墳時代から近世で種類は散布地。土師器、須恵器、陶磁器片が表面採集によって確認されているが調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
22	なかやしきひがし 中屋敷東遺跡	N0061 古墳～平安	新田地域の生品地区に位置する。市内でも中央部よりやや西側にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代から平安時代で種類は集落跡。新田町教委において発掘調査を実施しており、古墳時代から平安時代の住居跡、円形周溝等が検出されている。第11集新田東部遺跡群（平成5）	1回 新田町教委
23	とうぶちくいせきぐん 東部地区遺跡群	J0112 弥生～近世	尾島地域の尾島地区に位置する。市内でも南端部にあたり、南側では利根川に面する。遺跡の時代区分は、弥生時代から近世で種類は集落跡。尾島町教委において発掘調査を実施しており、平安時代の住居跡、土坑等が検出されている。太田市内遺跡1（平成17）	4回 尾島町教委
24	てらやまこふん 寺山古墳	T0108 古墳	太田地域の強戸地区に位置する。市内でも北端部にあたり、北側では桐生市と接する。遺跡の時代区分は、古墳時代で種類は古墳。調査歴はなく、今回が初めての調査となる。	なし
25	じゅうどのすいげんかんれん 重殿水源関連遺跡	史跡近接地 近世	新田地域の生品地区に位置する。市内でも中央部よりやや西側にあたる。国指定史跡「新田荘遺跡重殿水源」の南側近接地。史跡隣接地ということから、平成16年度に新田町教委において確認調査を実施しており、溝や沖積地の所在が確認されている。第38集新田町内遺跡Ⅶ（平成17）	1回 新田町教委

第4章 調査を実施した遺跡の概要

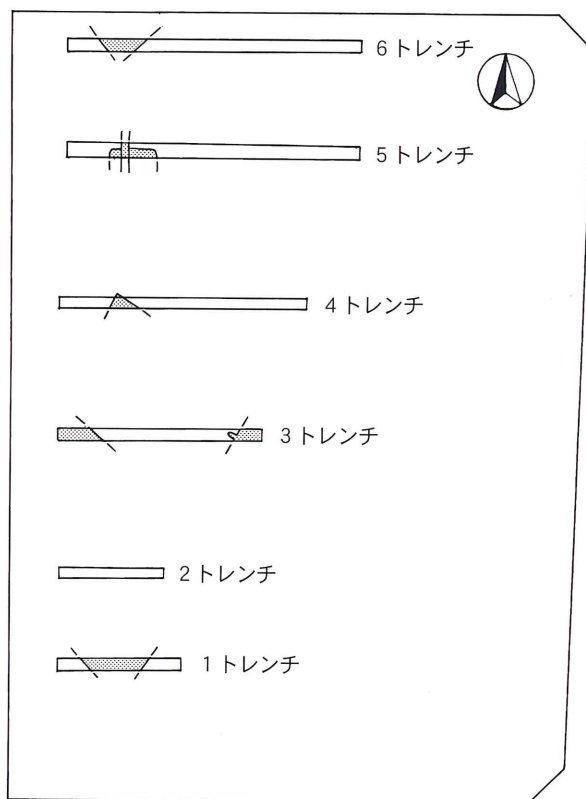
1. 向野遺跡 (No.1)

向野遺跡は、古墳・奈良・平安時代の集落として知られている遺跡で、東武伊勢崎線太田駅の南約4kmに位置し、太田市の中心部に近い沢野地区内に所在している。遺跡の立地は古墳の密集地として知られている高林台地の南端部に位置し、その範囲は八瀬川より東西方向に約560m、東西方向に約1250mのやや不整な楕円形を呈する。東側には古墳時代中期～後期の集落を形成する五庵遺跡、西側の台地には高林西原古墳群や鶴巻古墳群、さらに北西1.5kmには県指定史跡である朝子塚古墳などが所在する。また、南西部には縄文時代中期、古墳時代中期～平安時代の集落を形成する高林築梁場遺跡が所在している。向野遺跡地内の調査としては、旧太田市教育委員会において、①平成4年6月に南小学校の北100mの地点で共同住宅建設に伴う発掘調査を実施しており、130㎡の範囲において古墳時代から平安時代にかけての住居跡5軒、時期不明住居1軒、溝1条が確認されている。また、②平成6年6月には、南小学校の南西地点においてし尿処理施設の建設に伴う発掘調査を実施し、230㎡の調査区から溝3条、土坑6基を検出。また③同年12月には南小学校の南約100mの地点で、宅地分譲造成工事に伴う発掘調査を実施し、90㎡の進入道路部分において、平安時代の住居跡5軒が検出されている。

今回の開発内容は集合住宅建設であるため、建物の建設予定地を中心にトレンチ調査を行った。トレンチは調査区の南側より東西方向に1～6の設定を行い、ローム面まで重機によって掘り下げた。その結果、1トレンチで住居跡1軒、3トレンチで住居跡2軒、4トレンチで住居跡1軒、5トレンチで住居跡1軒と溝1条、6トレンチで住居跡1軒を確認した。集合住宅建設部分は盛土によって遺構保護層が確保できることから、確認調査で終了とした。

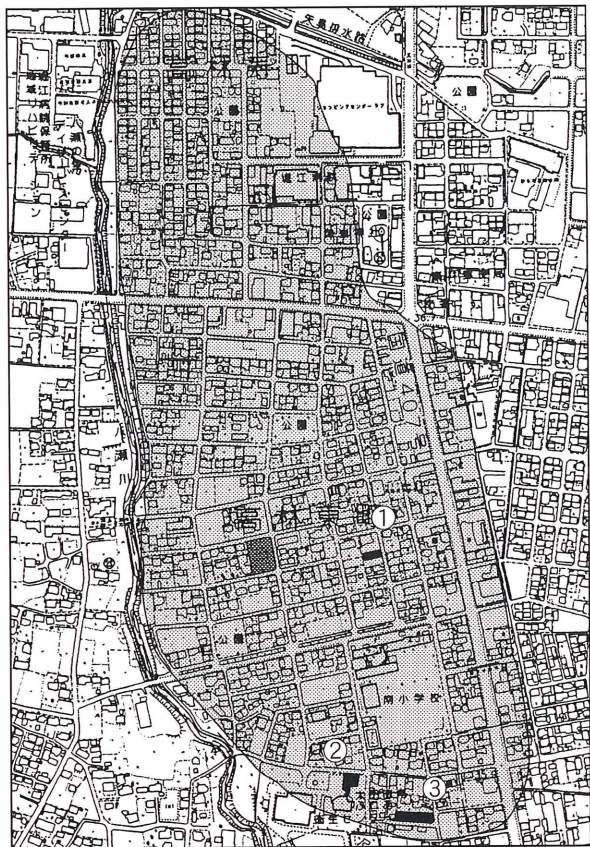


調査区位置図



向野遺跡トレンチ配置図

0 1:500 10m



調査地全景



1 トレンチ (西より)



3 トレンチ (西より)



4 トレンチ (西より)



5 トレンチ (西より)

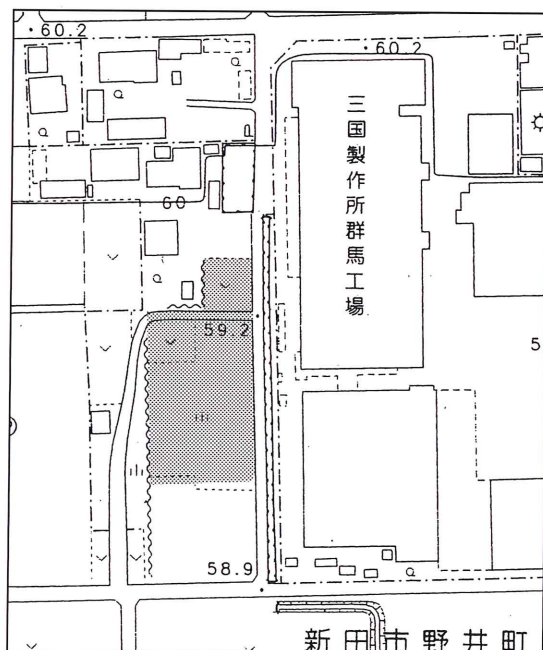


6 トレンチ (西より)

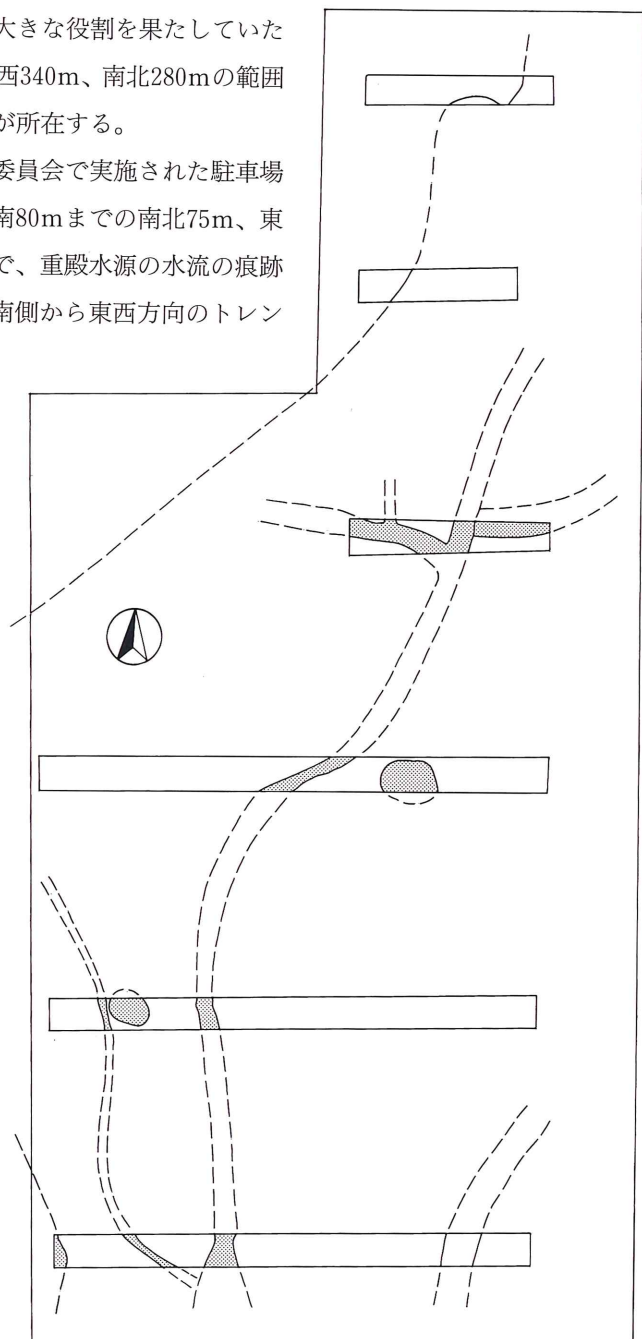
2. 重殿水源関連遺跡 (No.25)

重殿水源は、平成12年11月1日に国指定史跡「新田荘遺跡」のひとつ「新田荘遺跡重殿水源」として指定を受けました。この水源の立地は、大間々扇状地の端部にあたるため湧水点が多く、新田地域でも湧水点が東西方向に点在する地域として知られている。現状は周囲を民家や工場が立ち並ぶためコンクリートで護岸されており、東西10m、南北23mの範囲に囲まれている。湧水はこの地点の南側より道路を挟んで東側に流れ出しており一級河川「大川」の源流ともなっている。歴史的には、元亨2年(1322)の「関東裁許状」(正木文書)によると、大館宗氏と岩松政経が「一井郷沼水」が流れ出た「用水堀」を巡って論争を起こし鎌倉幕府が判決を下したことが記載されており、この「一井郷沼水」が重殿であると考えられている。この水源が新田荘の経営に大きな役割を果たしていたことが伺える。また、この水源の150m南には、東西340m、南北280mの範囲に、古墳時代の集落として知られている重殿遺跡が所在する。

今回の確認調査範囲は、平成16年に新田町教育委員会で実施された駐車場部分の確認調査に続く北側の土地で、重殿水源の南80mまでの南北75m、東西35mを計る。将来的に公園化していく計画の中で、重殿水源の水流の痕跡を確認しておくのが目的であった。したがって、南側から東西方向のトレンチを6本設定し、ローム面まで掘り下げて遺構確認を実施した。その結果東西方向に溝3条と、付随する溝3条、井戸1基が確認された。各遺構からの遺物は検出されず、井戸の上部には円礫が埋設されて埋められていた。また、覆土の色からは近世以降の遺構である可能性が高い。



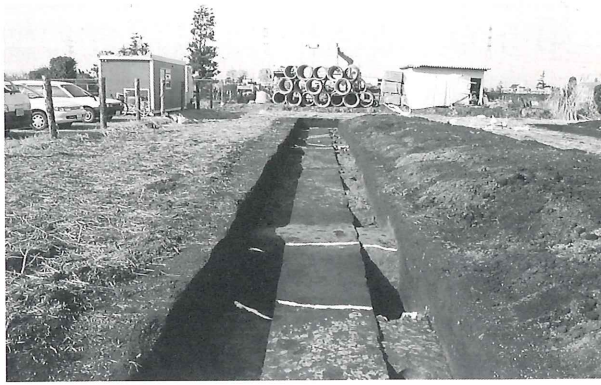
調査区位置図



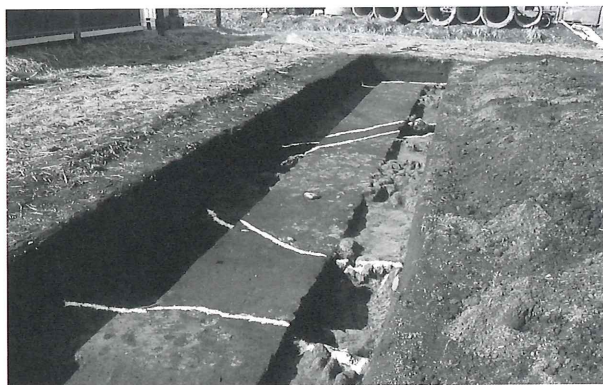
トレンチ配置図



調査区全景（南より）



1 トレンチ（東より）



1 トレンチ（西側）



2 トレンチ（東より）



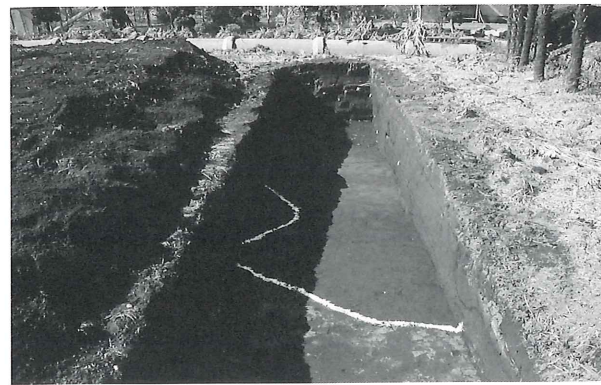
3 トレンチ（東より）



4 トレンチ（東より）



5 トレンチ（東より）

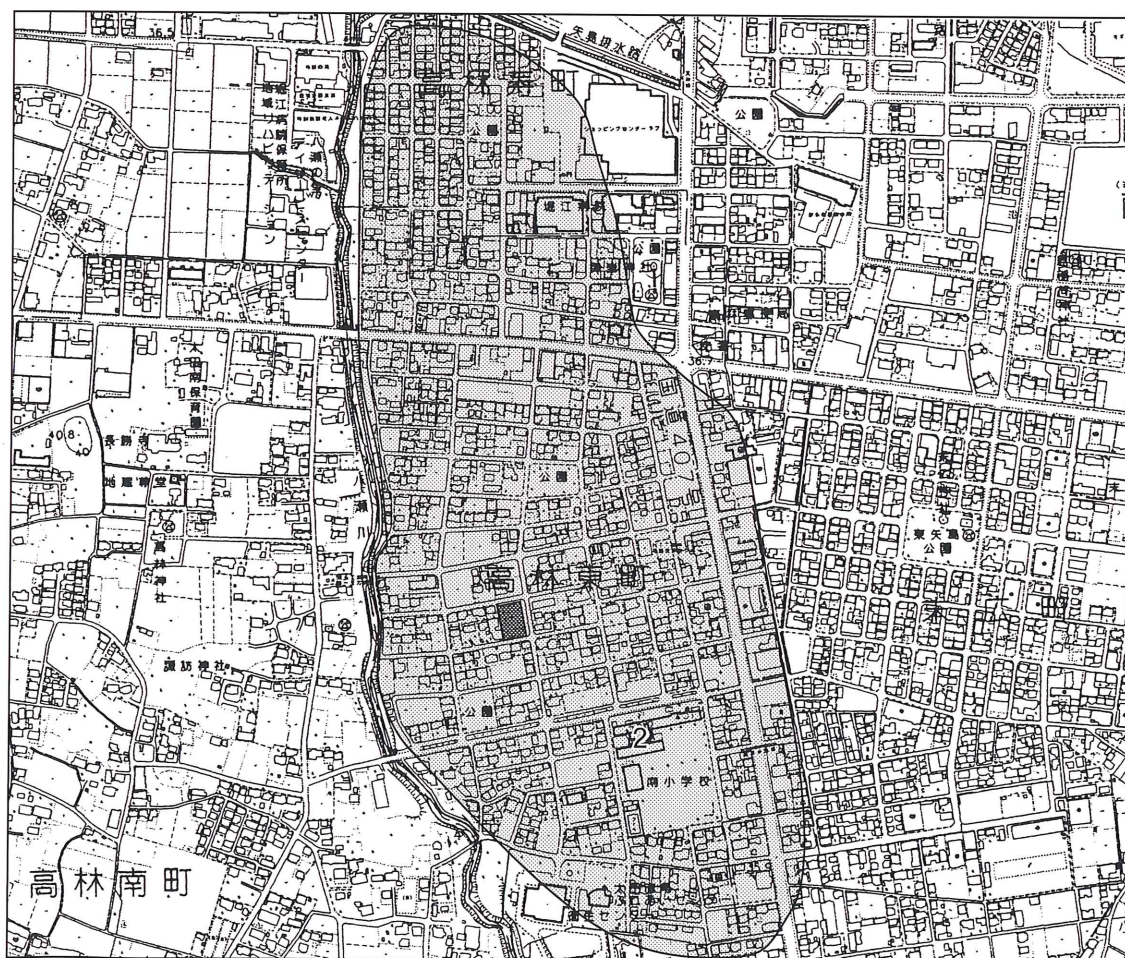
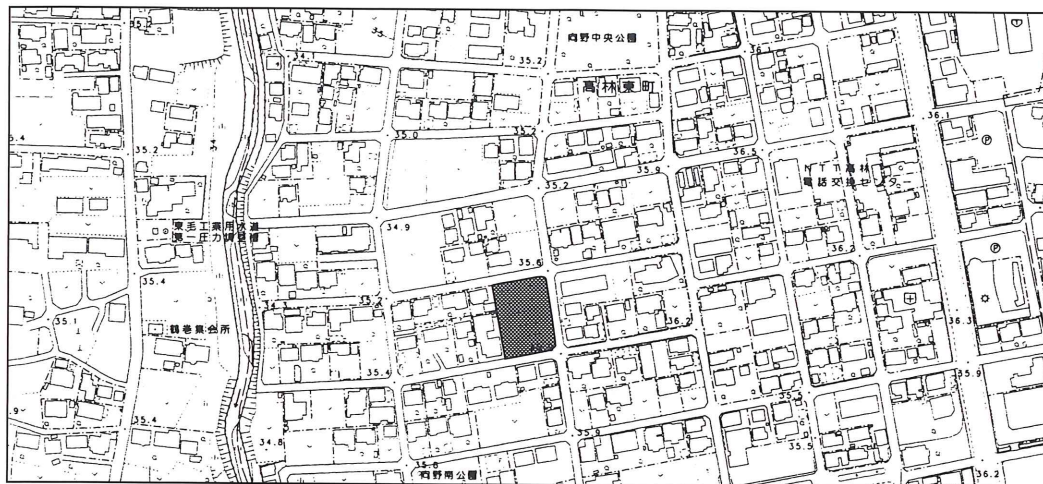


6 トレンチ（東より）

第5章 試掘・確認調査の概要

1. 向野遺跡^{むかいの}

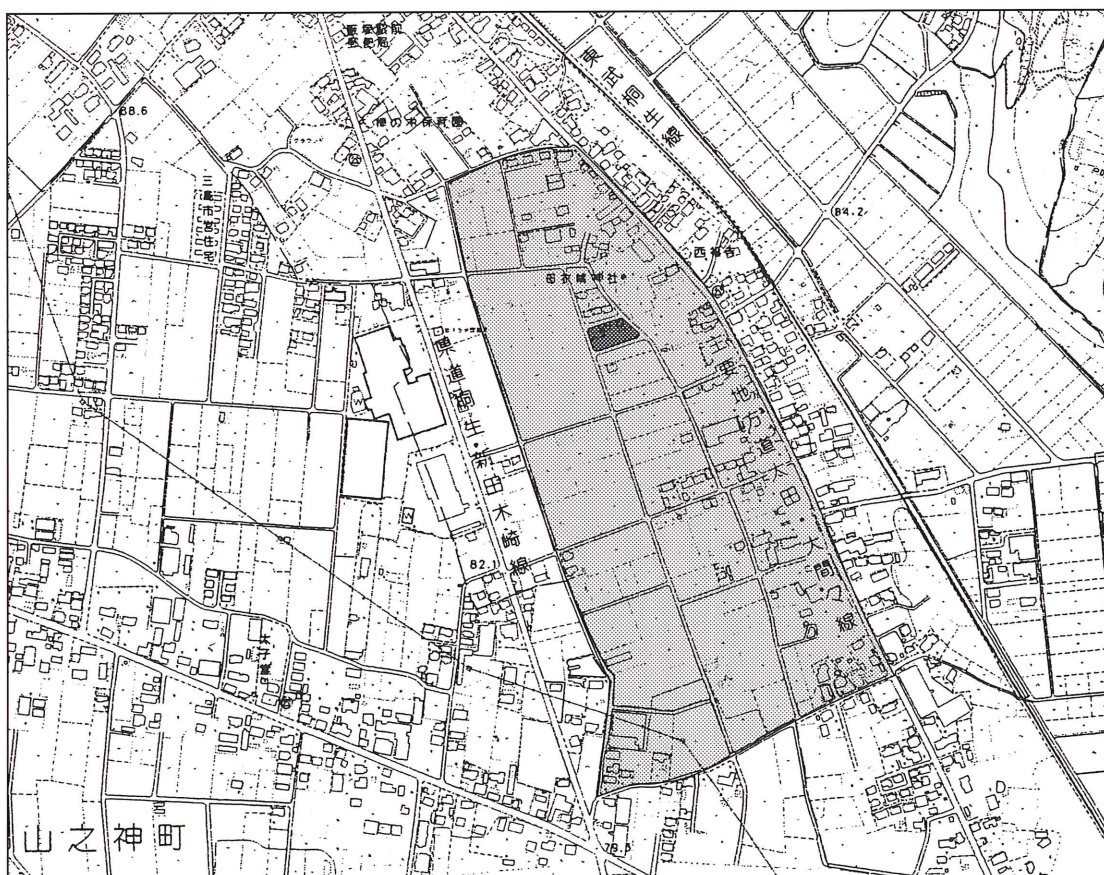
- ① 所在地 太田市高林東町2386番1 他
- ② 調査面積 60㎡ (対象面積1,745㎡)
- ③ 調査原因 集合住宅
- ④ 調査期間 平成17年5月27日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向(6本)のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ40～80cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 住居6軒、溝1条を確認。遺物なし。(詳細は第4章)



向野遺跡の範囲と調査区位置図

にし の にし 2. 西野西遺跡

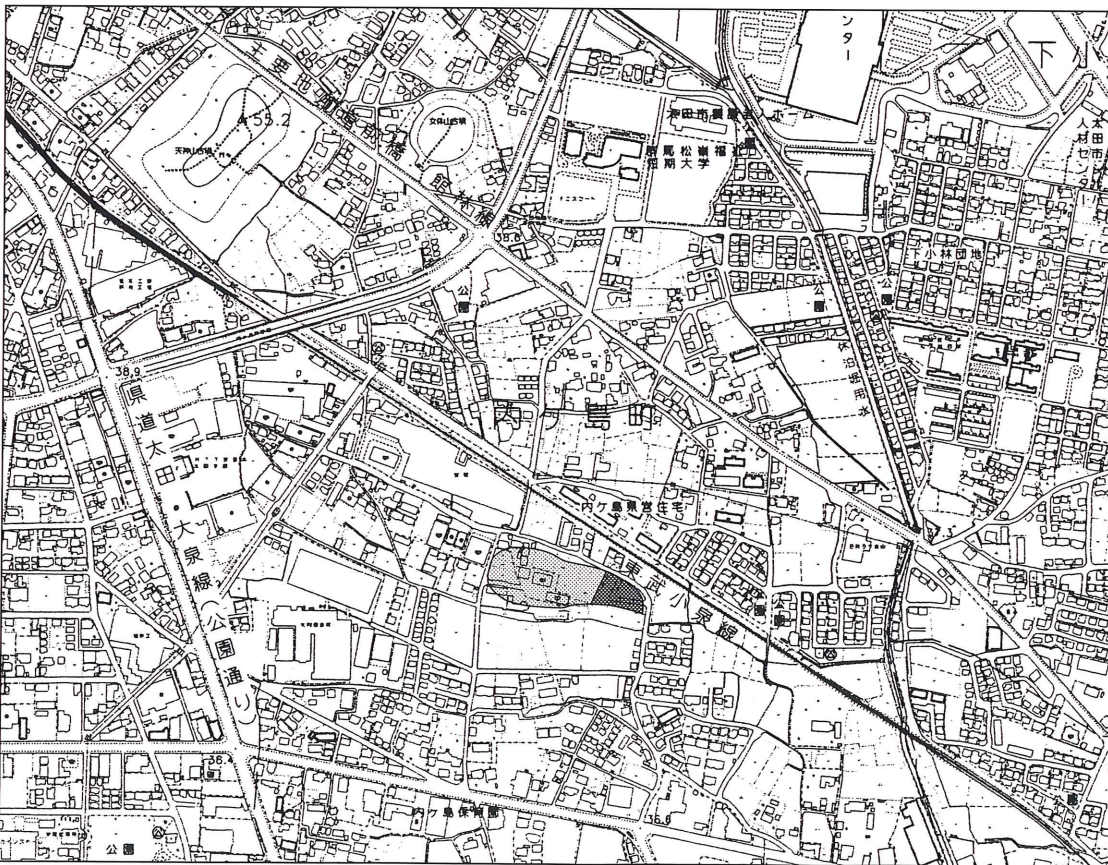
- ① 所在地 太田市藪塚町2974番1 他
- ② 調査面積 100m² (対象面積2,463m²)
- ③ 調査原因 土地分譲
- ④ 調査期間 平成17年6月7日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向(2本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ35~45cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 土縄文土器片1点を確認。地改良区域内のため、表層が削平されていた。



西野西遺跡の範囲と調査区位置図

なかじま

- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向（１本）と南北方向（１本）にトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ50cm）遺構の確認調査を行った。



— 14 —

じょうの うち
4. 城ノ内遺跡

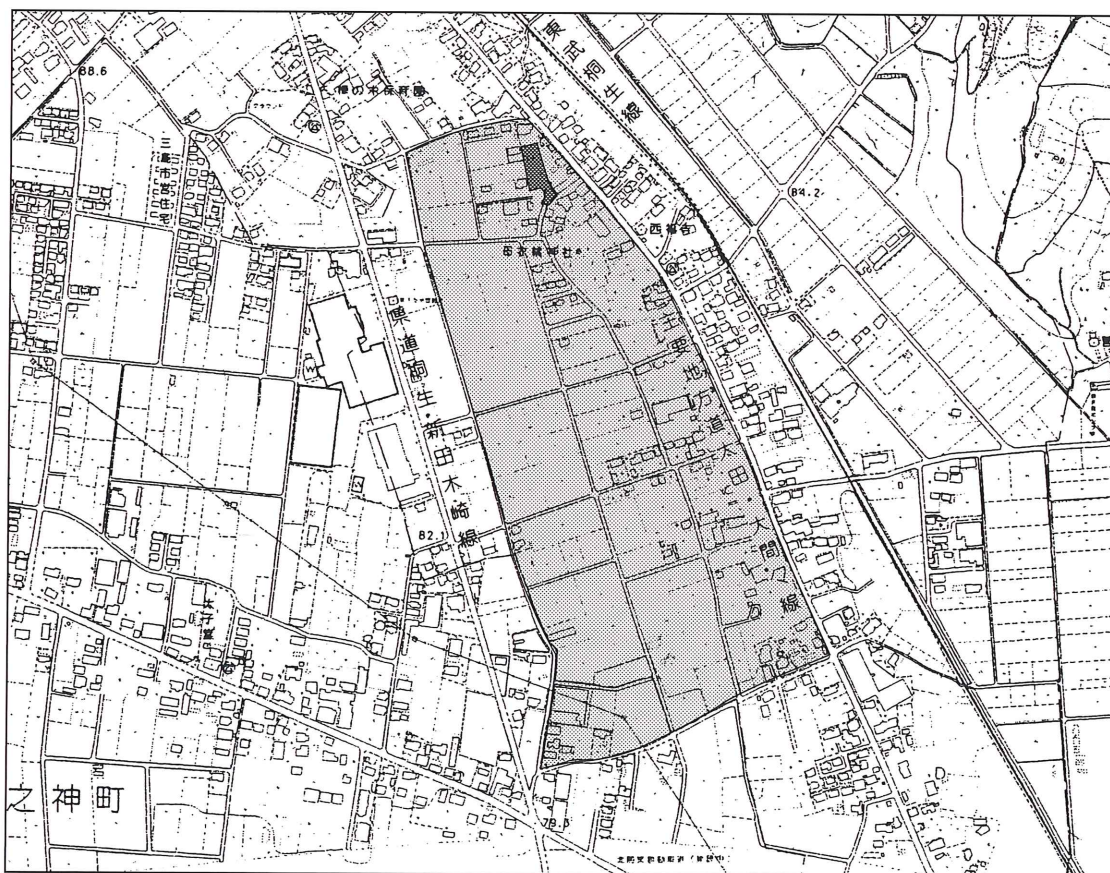
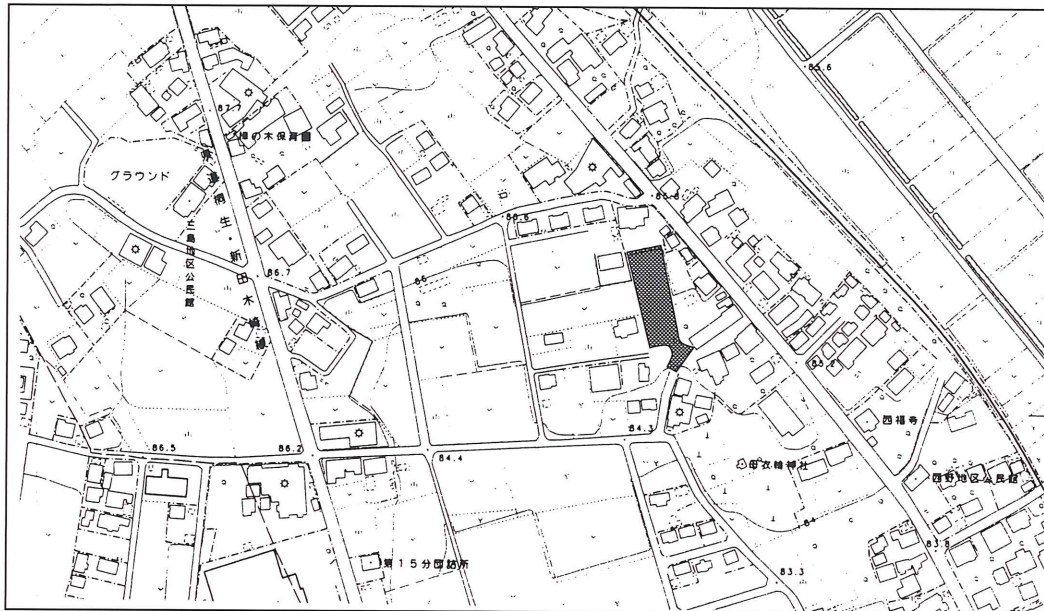
- ① 所在地 太田市八幡町19番8他
 ② 調査面積 120㎡ (対象面積3,937㎡)
 ③ 調査原因 土地分譲
 ④ 調査期間 平成17年6月17日
 ⑤ 調査方法 道路予定地内にT字状に東西方向(3本)、南北方向(1本)のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ55～80cm)遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 発見遺構なし。少量の土師器片を確認。



城ノ内遺跡の範囲と調査区位置図

5. ^{にし の にし}西野西遺跡

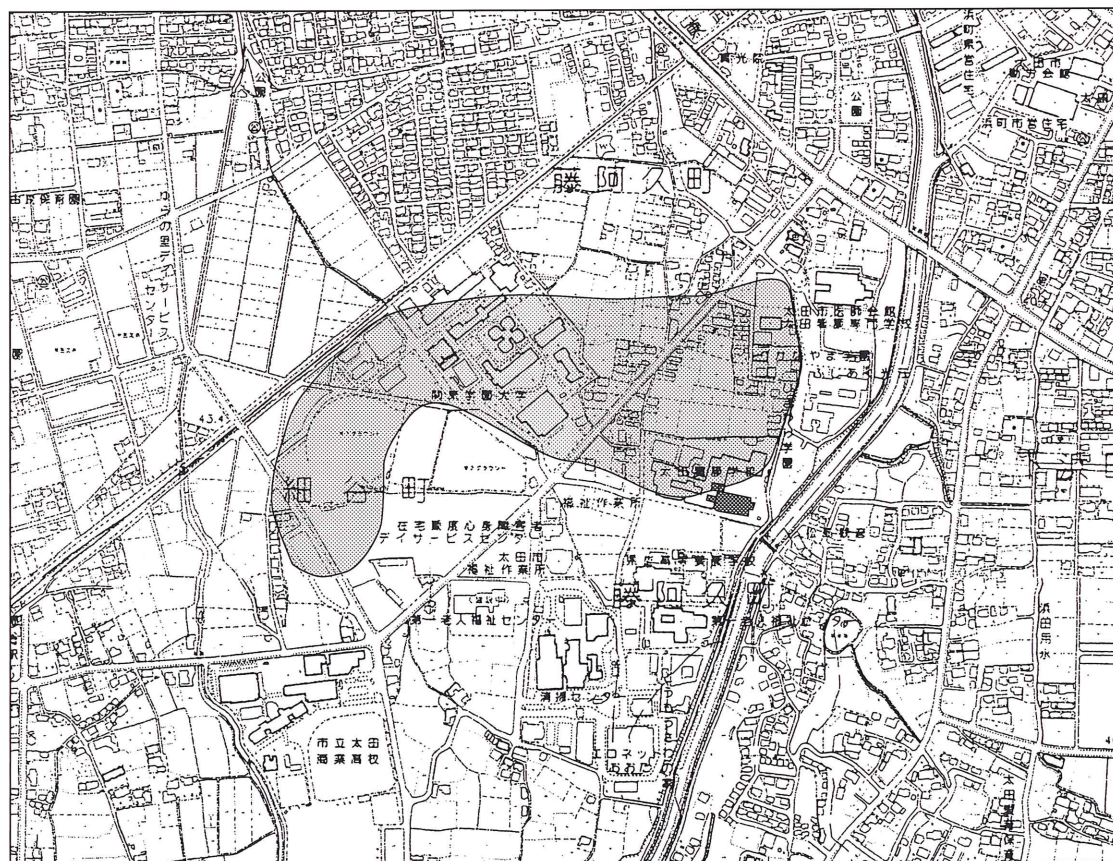
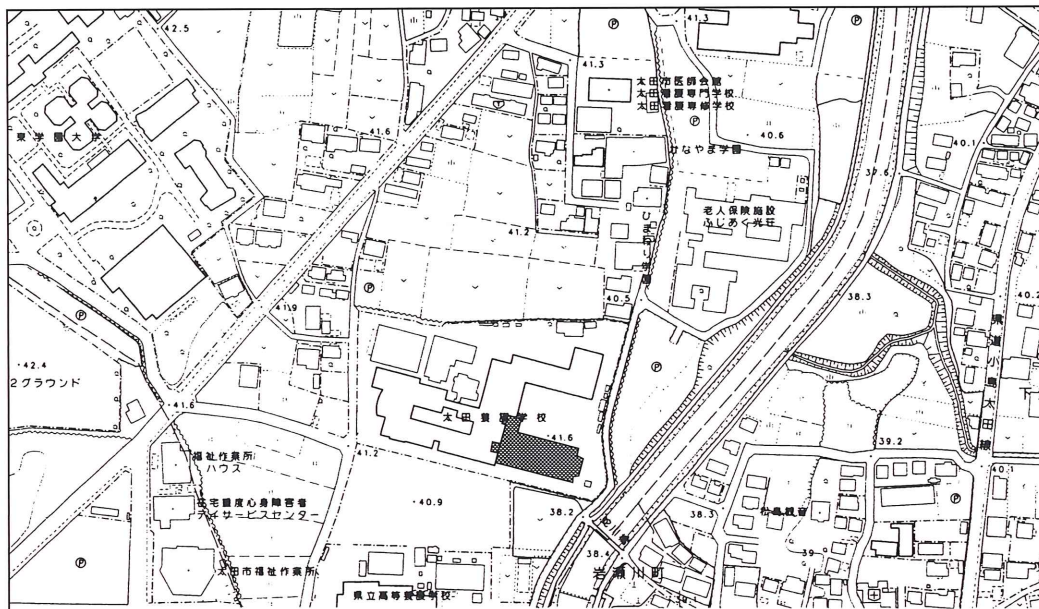
- | | | | |
|--------|-----------------|--------|---|
| ① 所在地 | 太田市藪塚町2952番 8 | ⑤調査方法 | 道路予定地内に南北方向のトレンチを 2 本設定し、重機により表土除去後（深さ40cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 32㎡（対象面積1,923㎡） | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | 土地分譲 | | |
| ④ 調査期間 | 平成17年 7 月 5 日 | | |



西野西遺跡の範囲と調査区位置図

6. ^{かわくぼ}川窪遺跡

- ① 所在地 太田市藤阿久町26番1
- ② 調査面積 50m² (対象面積1,722m²)
- ③ 調査原因 学校建設
- ④ 調査期間 平成17年8月1日～8月5日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向(1本)と東西方向(2本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ50cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。粘土面が確認された。

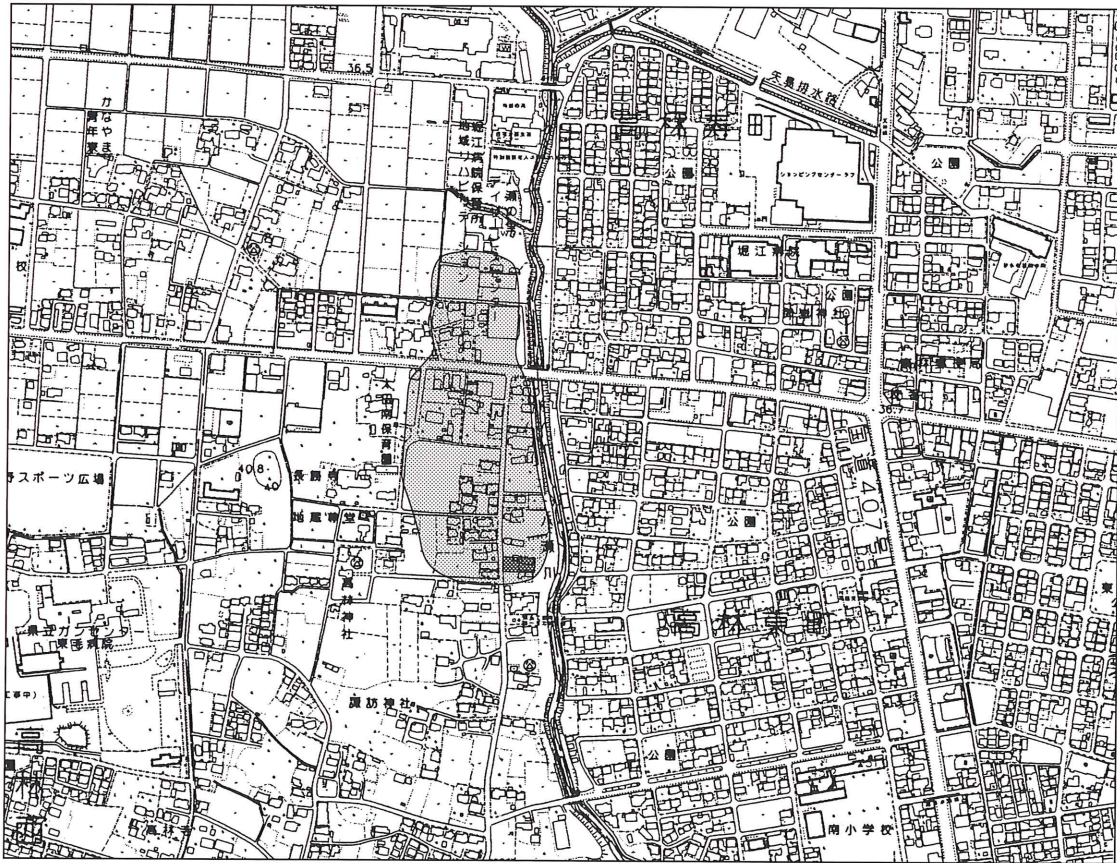
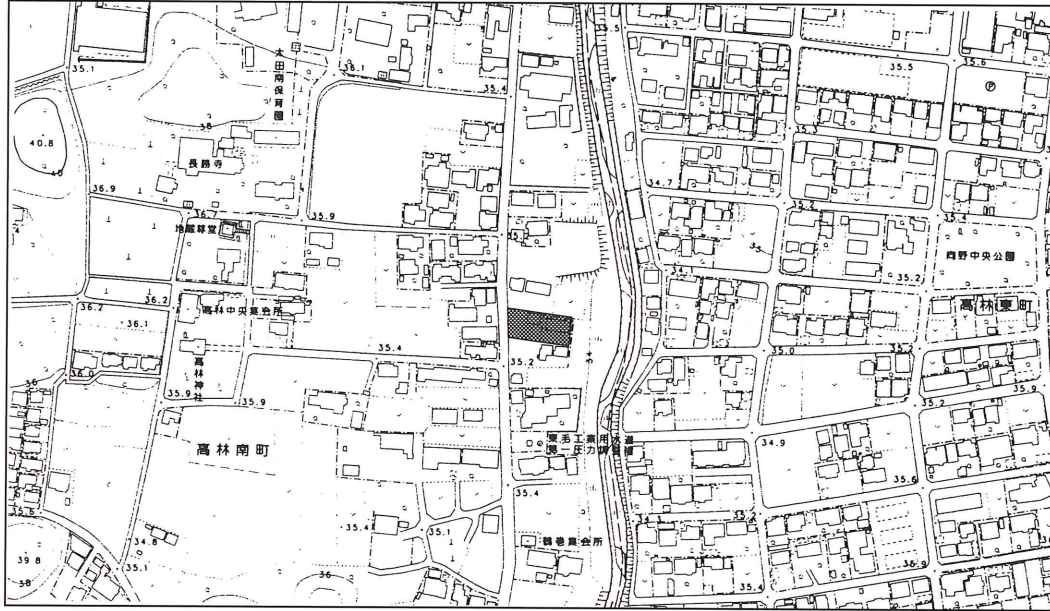


川窪遺跡の範囲と調査区位置図

たかばやしほんごう

7. 高林本郷遺跡

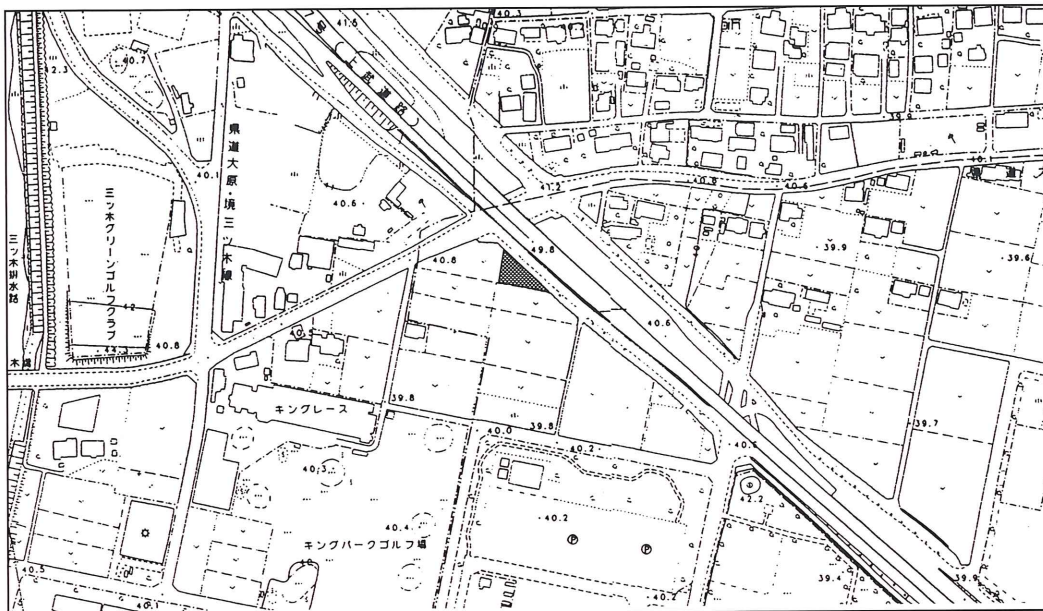
- ① 所在地 太田市高林南町736番
- ② 調査面積 27㎡ (対象面積823㎡)
- ③ 調査原因 集合住宅
- ④ 調査期間 平成17年7月29日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向(1本)と東西方向(2本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ50～70cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。ローム層は無く粘質土を確認。



高林本郷遺跡の範囲と調査区位置図

8. こすみだまえ 小角田前遺跡

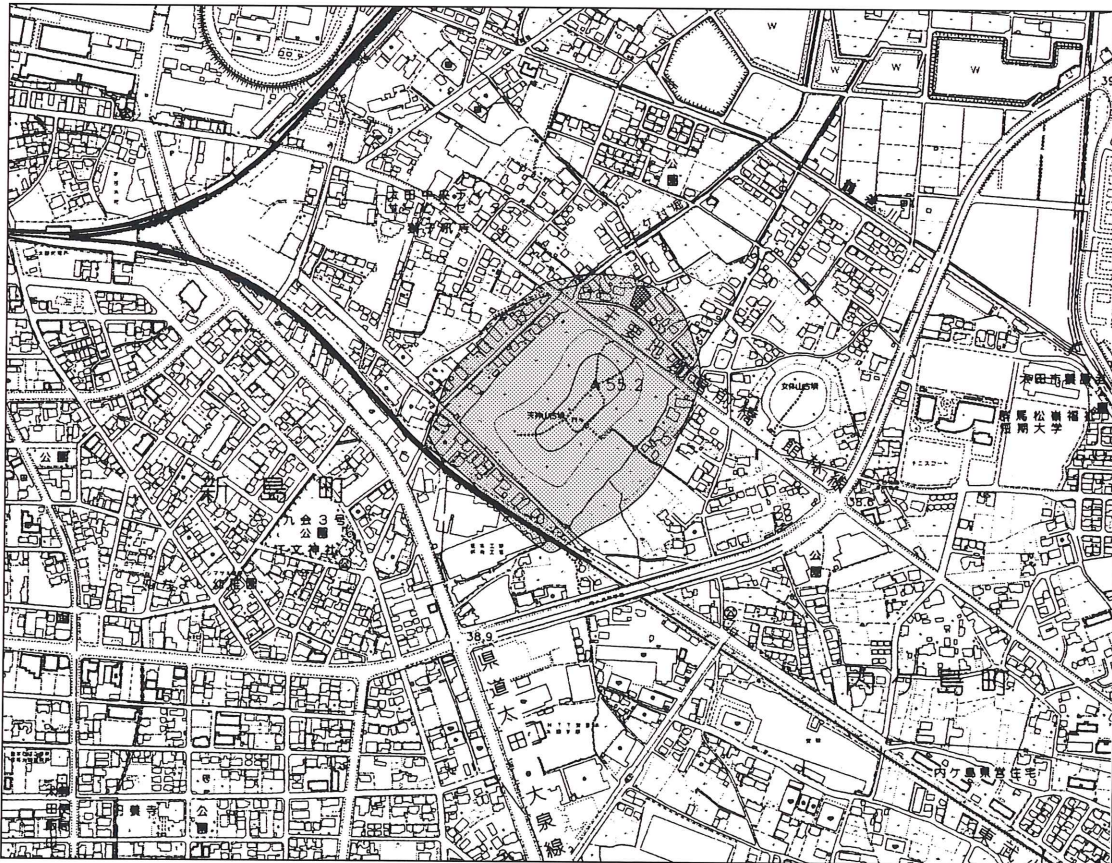
- ① 所在地 太田市世良田町2879番2
② 調査面積 28㎡（対象面積100㎡）
③ 調査原因 都市ガス施設建設
④ 調査期間 平成17年8月1日
⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向（2本）のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ75～80cm）遺構の確認調査を行った。
⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



小角田前遺跡の範囲と調査区位置図

てんじんやま ちゅうていたい
9. 天神山古墳（中堤帯）

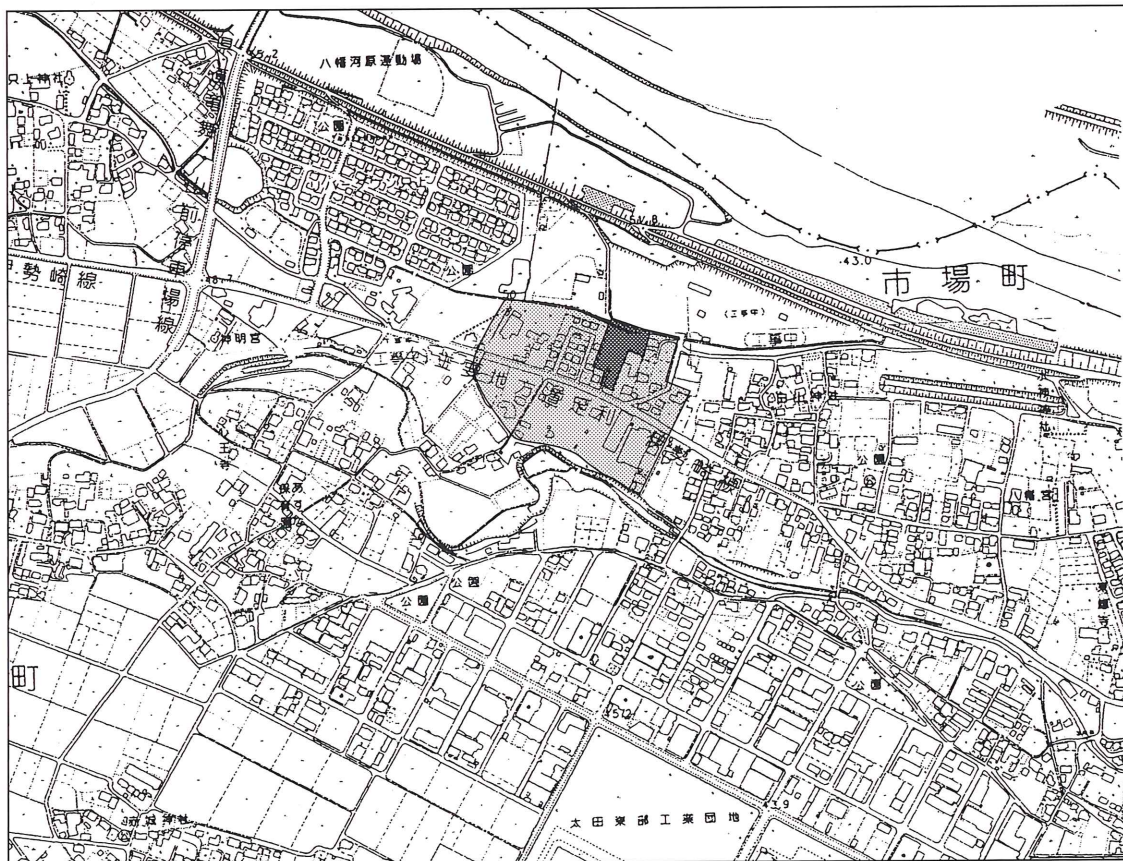
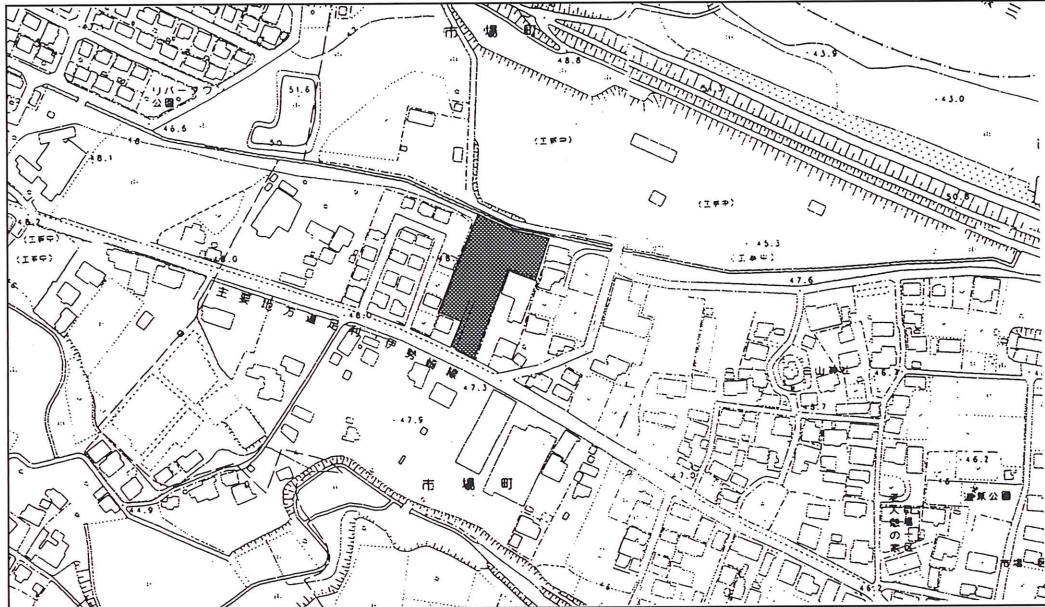
- ① 所在地 太田市内ヶ島町1626番 2
- ② 調査面積 28m²（対象面積447m²）
- ③ 調査原因 個人住宅
- ④ 調査期間 平成17年9月5日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向（10本）にトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ40～60cm）遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



天神山古墳の範囲と調査区位置図

こくさい じじょうあと
10. 国済寺城跡

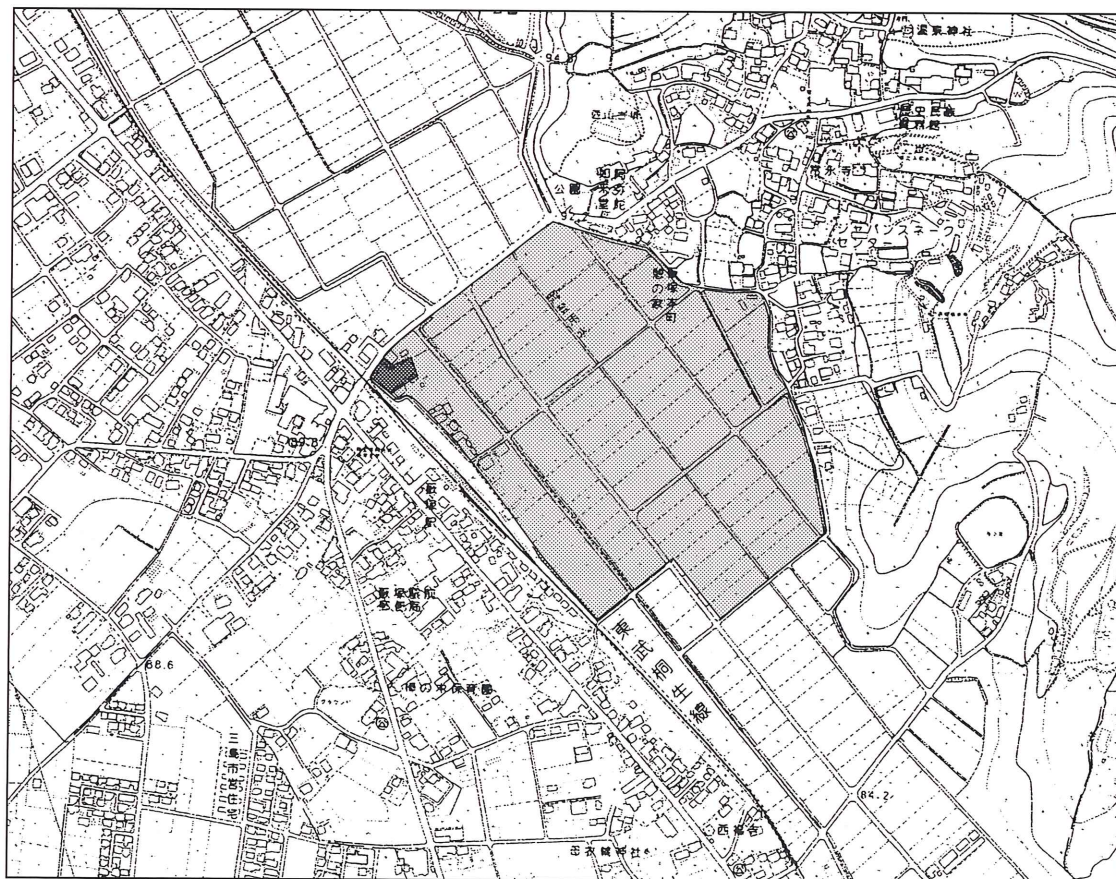
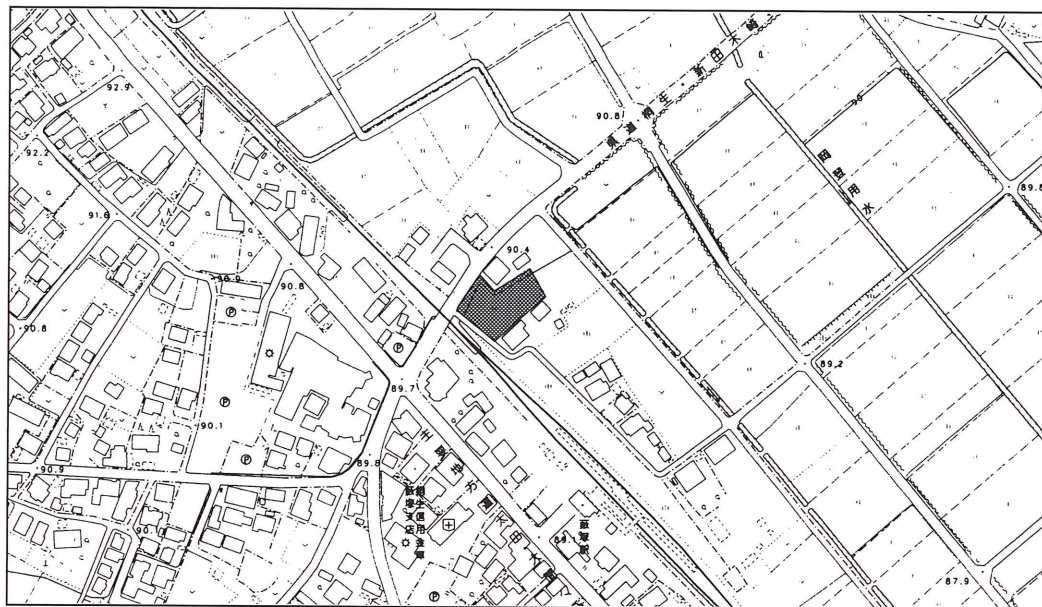
- | | | | |
|--------|-----------------|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市市場町1139番12他 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向（3本）にトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ100～110cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 60㎡（対象面積3,052㎡） | ⑥ 調査結果 | 溝1条を検出。出土遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | 土地分譲 | | |
| ④ 調査期間 | 平成17年8月30日 | | |



国済寺城跡の範囲と調査区位置図

11. ^{はちこく}八石遺跡

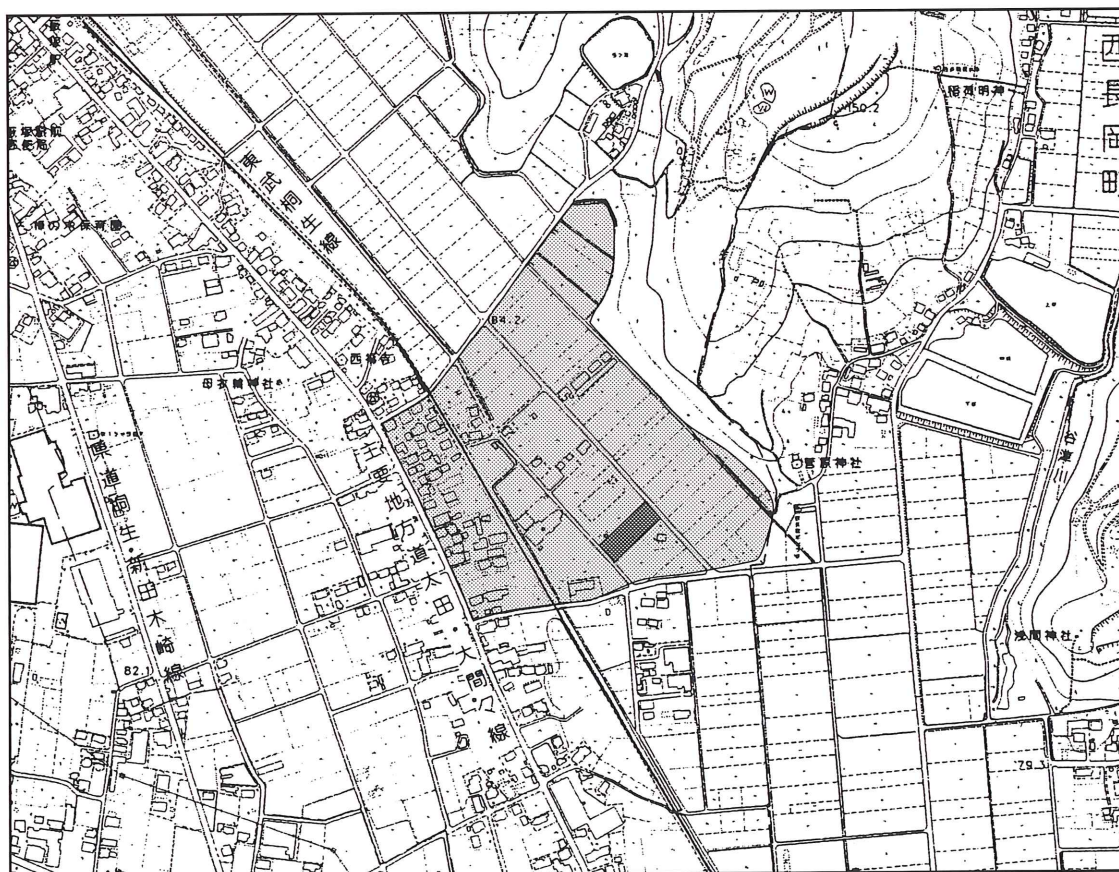
- ① 所在地 太田市藪塚町388番 1 他
- ② 調査面積 60m² (対象面積1,406m²)
- ③ 調査原因 集合住宅
- ④ 調査期間 平成17年 8 月24日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向 (6 本) にトレンチを設定し、重機により表土除去後 (深さ35～55cm) 遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 土師器片 (平安時代) が1 点出土。



八石遺跡の範囲と調査区位置図

にし のひがしなか

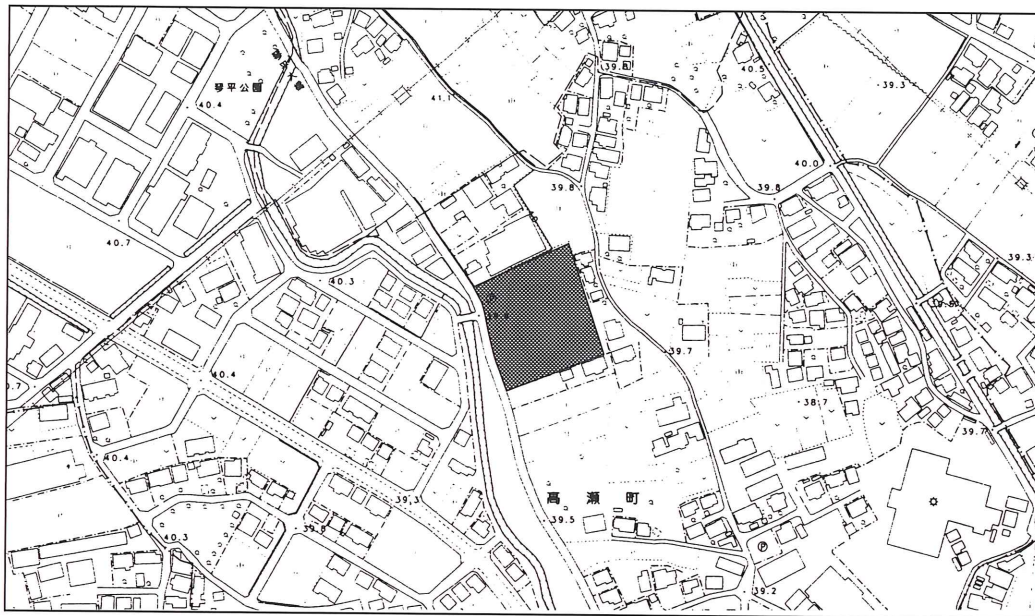
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



— 23 —

13. ^{たかぜまえはら}高瀬前原遺跡

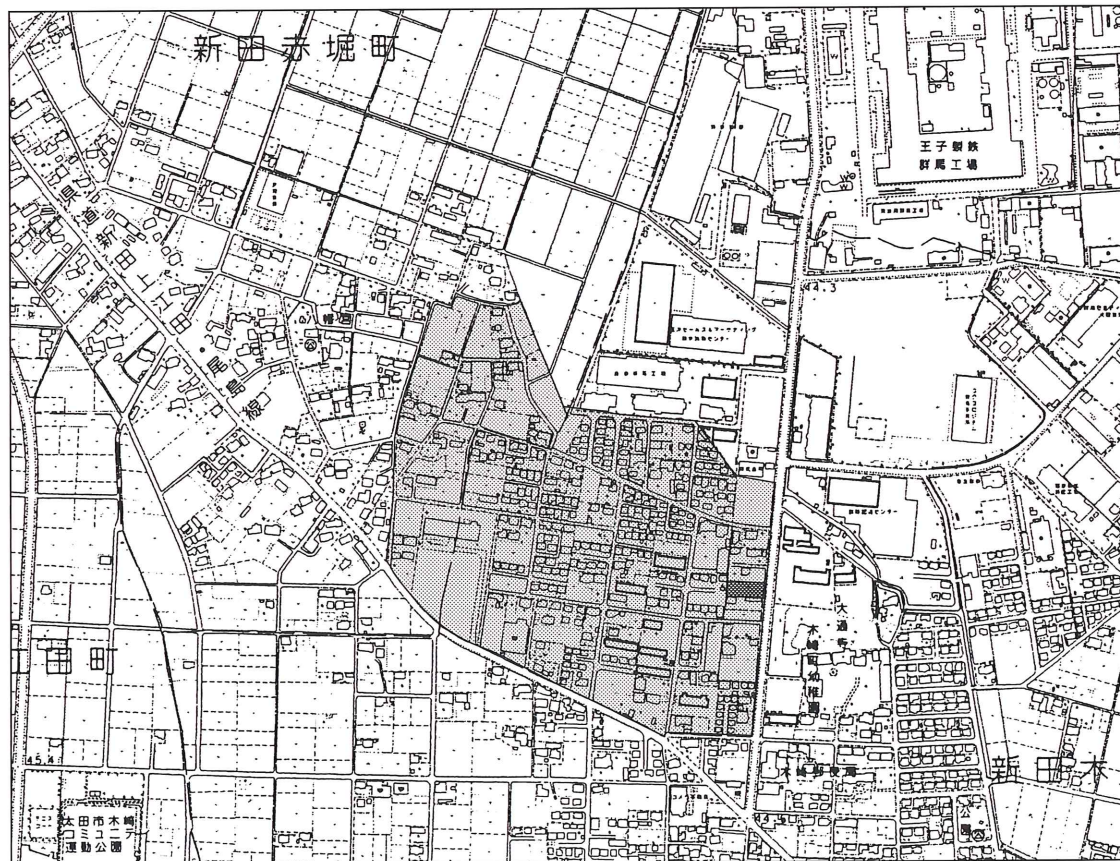
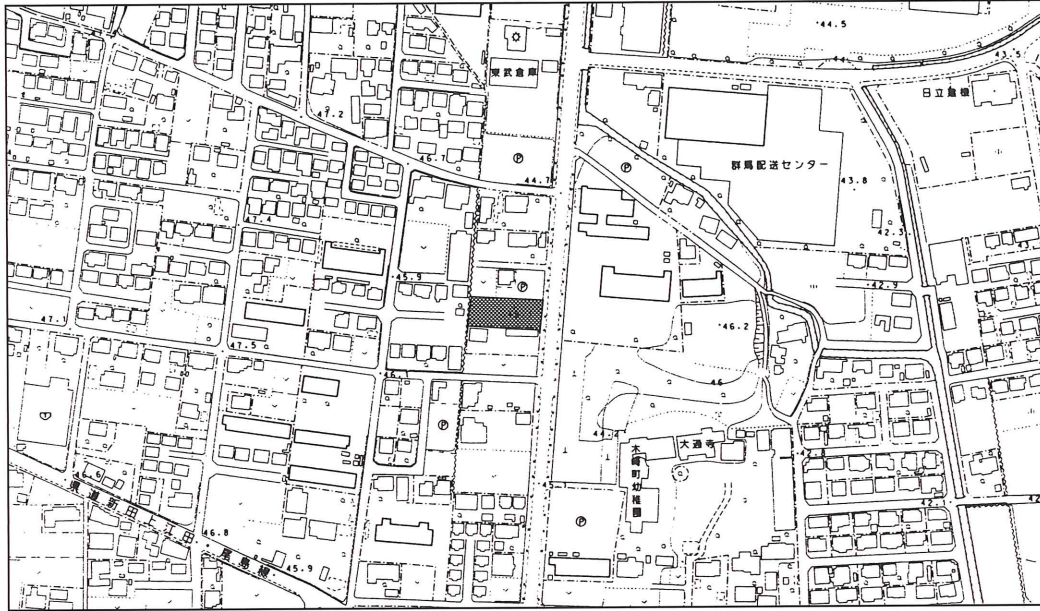
- ① 所在地 太田市高瀬町156番他
- ② 調査面積 50m² (対象面積5,350m²)
- ③ 調査原因 土調区画整理
- ④ 調査期間 平成17年10月17日
- ⑤ 調査方法 道路予定地内に東西方向(11本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ100～150cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



高瀬前原遺跡の範囲と調査区位置図

14. 一町田・堀之内遺跡

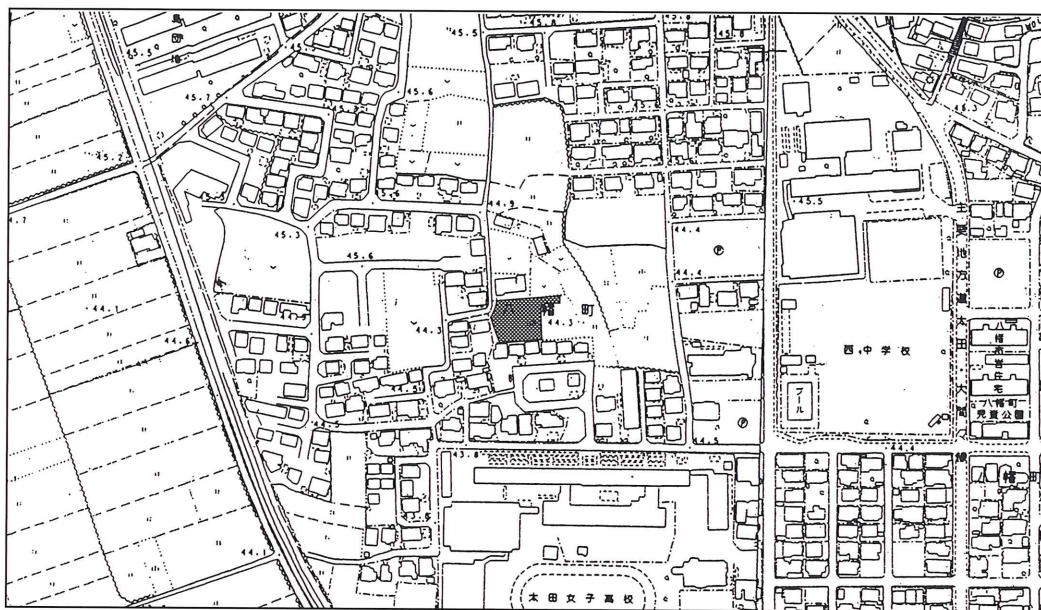
- ① 所在地 太田市新田木崎町1393番
 ② 調査面積 40m² (対象面積788m²)
 ③ 調査原因 土地分譲
 ④ 調査期間 平成16年10月7日
 ⑤ 調査方法 道路予定地内に東西方向(2本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ45~50cm)遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



一町田・堀之内遺跡の範囲と調査区位置図

15. 城ノ内遺跡^{じょうのうち}

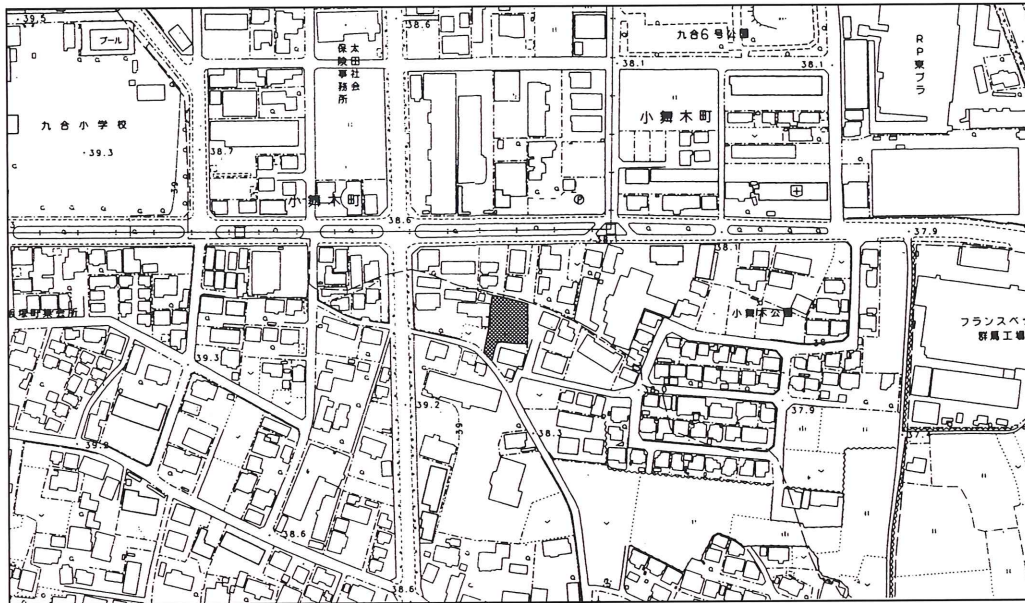
- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市八幡町21番 5 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向（1本）と東西方向（2本）にトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ30cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 45m ² （対象面積971m ² ） | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | 土地分譲 | | |
| ④ 調査期間 | 平成16年10月13日 | | |



城ノ内遺跡の範囲と調査区位置図

16. 飯塚古墳群

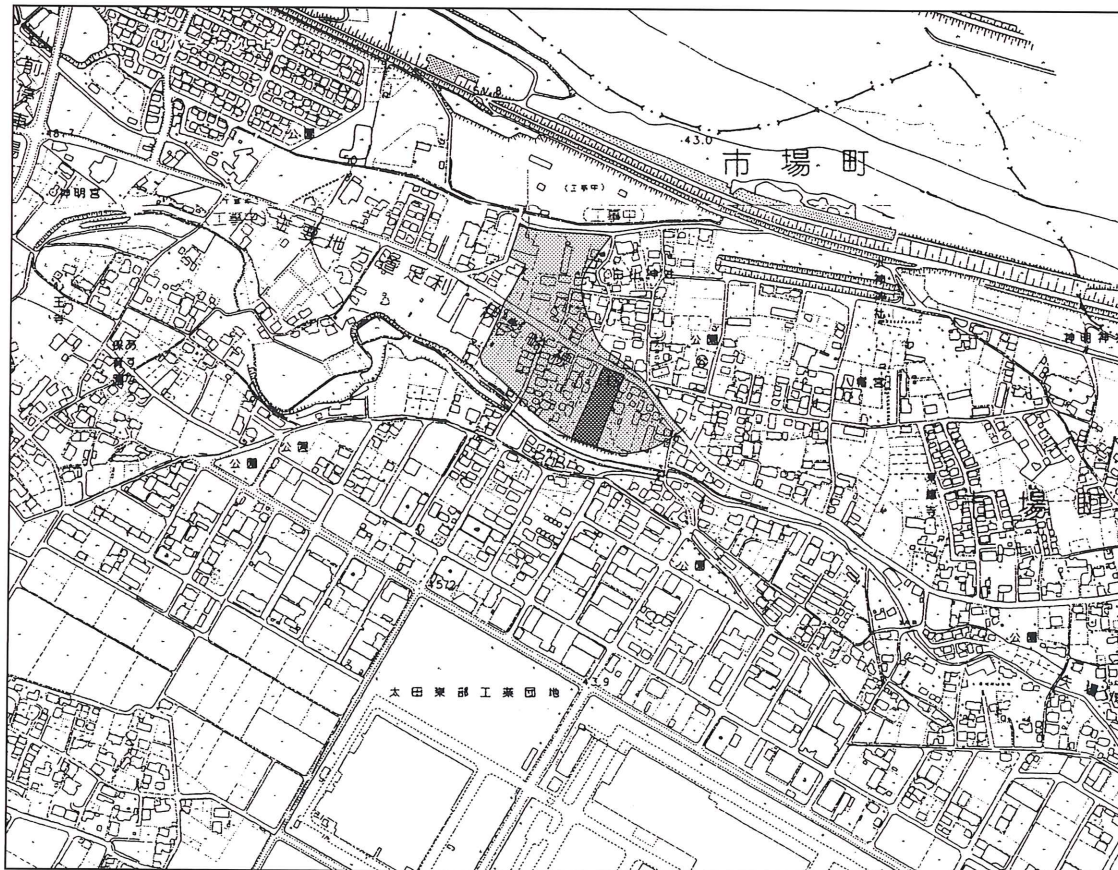
- ① 所在地 太田市飯塚町805番1
- ② 調査面積 30㎡ (対象面積752㎡)
- ③ 調査原因 集合住宅建設
- ④ 調査期間 平成17年10月14日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向(2本)と東西方向(1本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ25~40cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 溝1条(時期不明)を確認。遺物なし。



飯塚古墳群の範囲と調査区位置図

17. ^{どうばら}道原遺跡

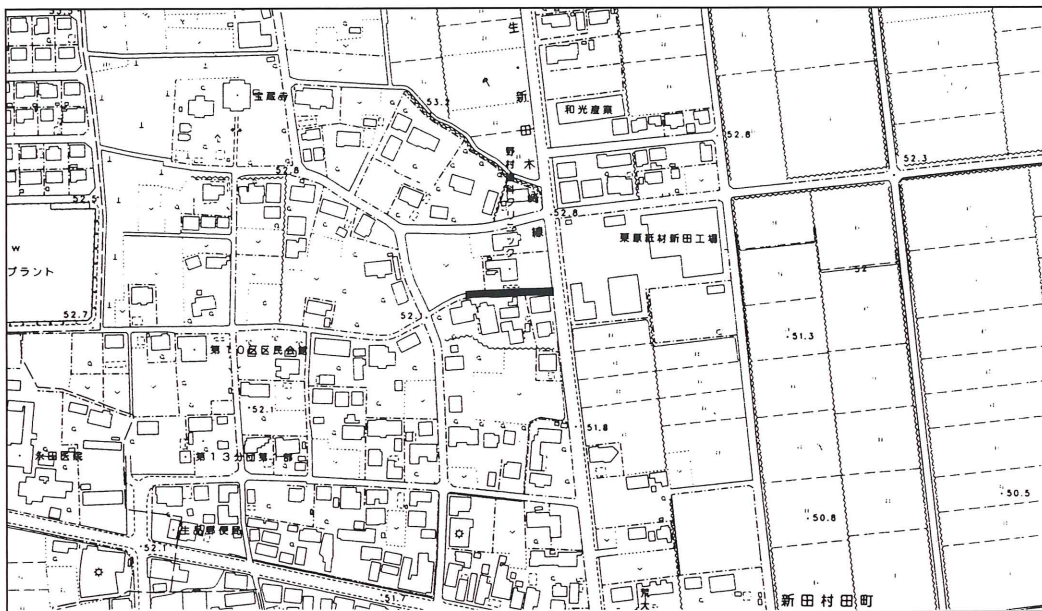
- ① 所在地 太田市市場町1074番1他
- ② 調査面積 127㎡ (対象面積3,520㎡)
- ③ 調査原因 土地分譲
- ④ 調査期間 平成17年10月26日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向(2本)と東西方向(2本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ35cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



道原遺跡の範囲と調査区位置図

なかむらた
18. 中村田遺跡

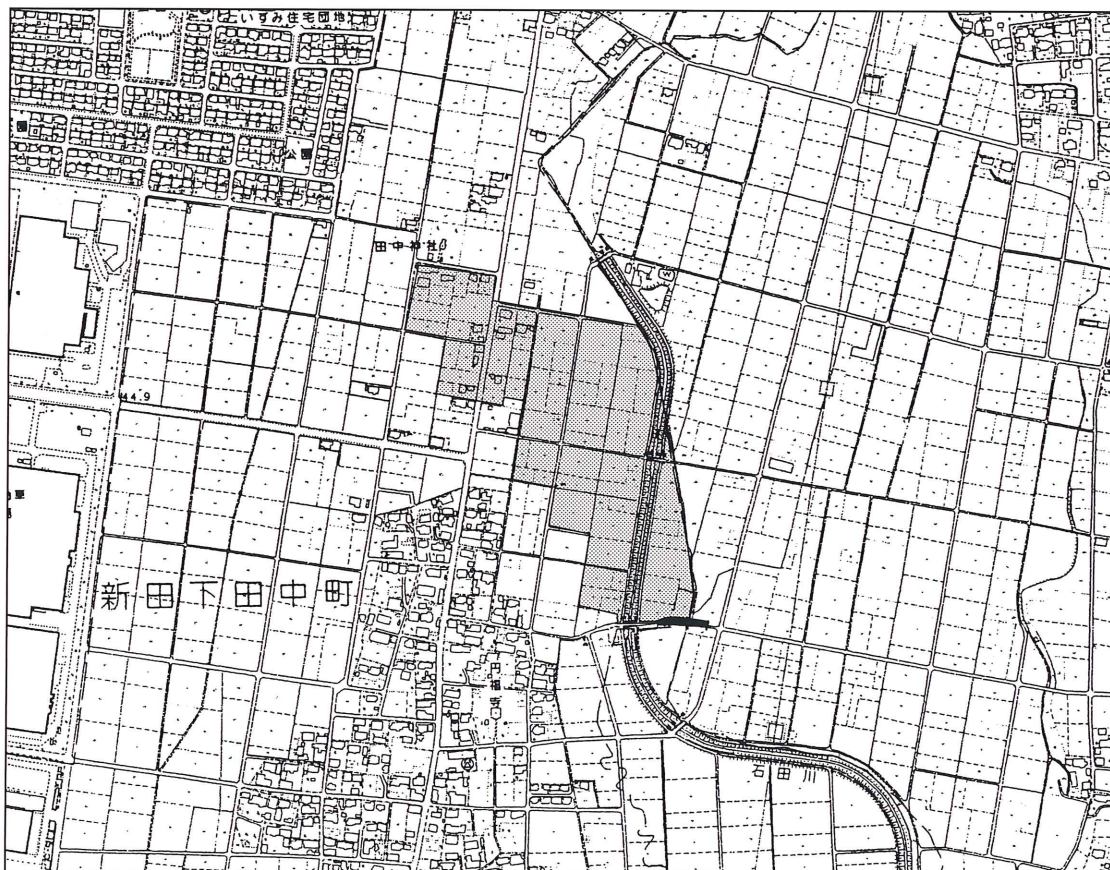
- ① 所在地 太田市新田村田町512番2 他
 ② 調査面積 20m² (対象面積893m²)
 ③ 調査原因 道路建設
 ④ 調査期間 平成17年12月8日
 ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向(2本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ40～50cm)遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



中村田遺跡の範囲と調査区位置図

げんろくぜき
19. 源六堰遺跡

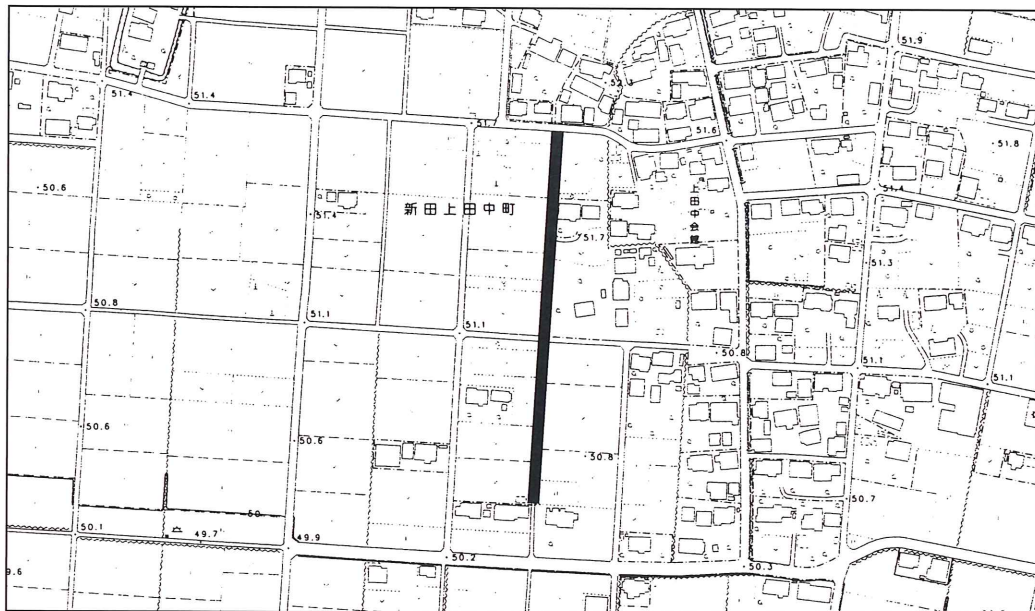
- ① 所在地 太田市新田下田中町344番1他
 ② 調査面積 60㎡ (対象面積1,034㎡)
 ③ 調査原因 道路建設
 ④ 調査期間 平成17年12月9日
 ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向(2本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ40～100cm)遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



源六堰遺跡の範囲と調査区位置図

21. 桑木島遺跡 くわきじま

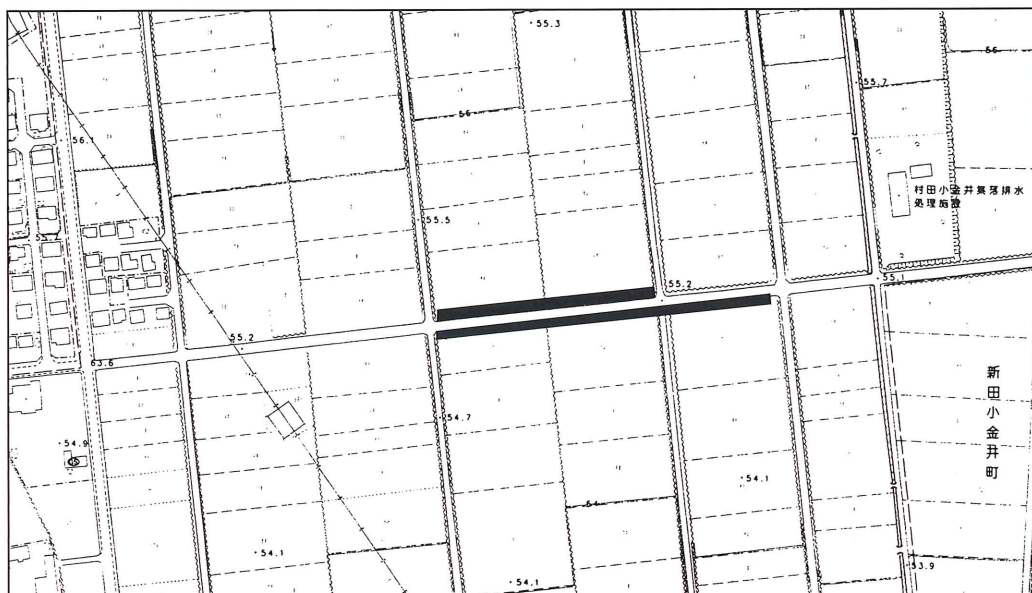
- ① 所在地 太田市新田上田中町426番1 他
 ② 調査面積 170㎡ (対象面積1,300㎡)
 ③ 調査原因 道路建設
 ④ 調査期間 平成17年12月15・16日
 ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向(4本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ60～110cm)遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



桑木島遺跡の範囲と調査区位置図

なかやしきひがし
22. 中屋敷 東 遺跡

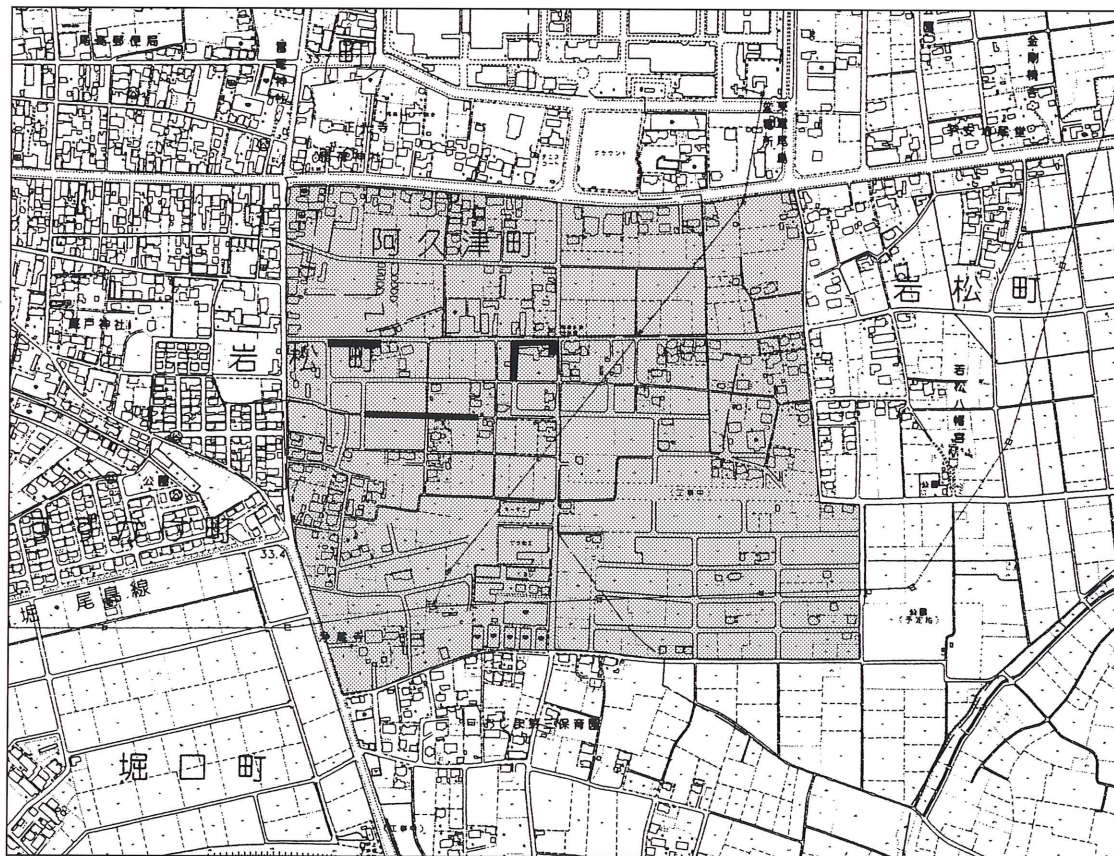
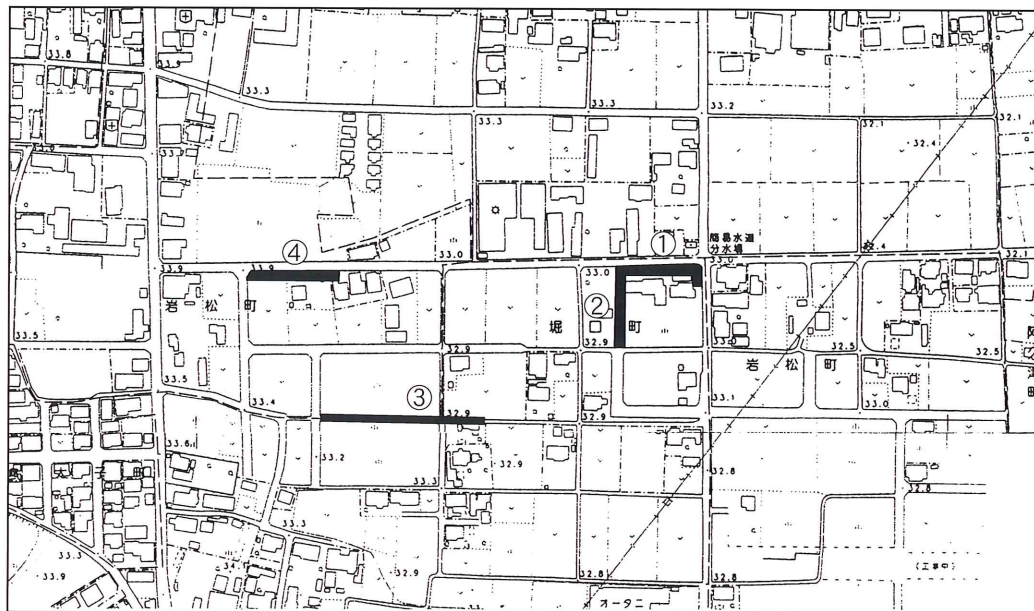
- ① 所在地 太田市新田村田町964番他
② 調査面積 180m² (対象面積6,200m²)
③ 調査原因 道路建設
④ 調査期間 平成17年12月19・20日
⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向(3本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ30~40cm)遺構の確認調査を行った。
⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



中屋敷東遺跡の範囲と調査区位置図

とうぶちく
23. 東部地区遺跡群

- ① 所在地 太田市堀口町268番2 他
 ② 調査面積 115m² (対象面積892m²)
 ③ 調査原因 土地区画整理
 ④ 調査期間 平成17年12月16日～22日
 ⑤ 調査方法 開発予定地内3箇所についてトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ50～100cm)遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 土坑1基、地震噴砂・地割れ(断層)の痕跡が検出された。



東部地区遺跡群の範囲と調査区位置図

24. 寺山古墳

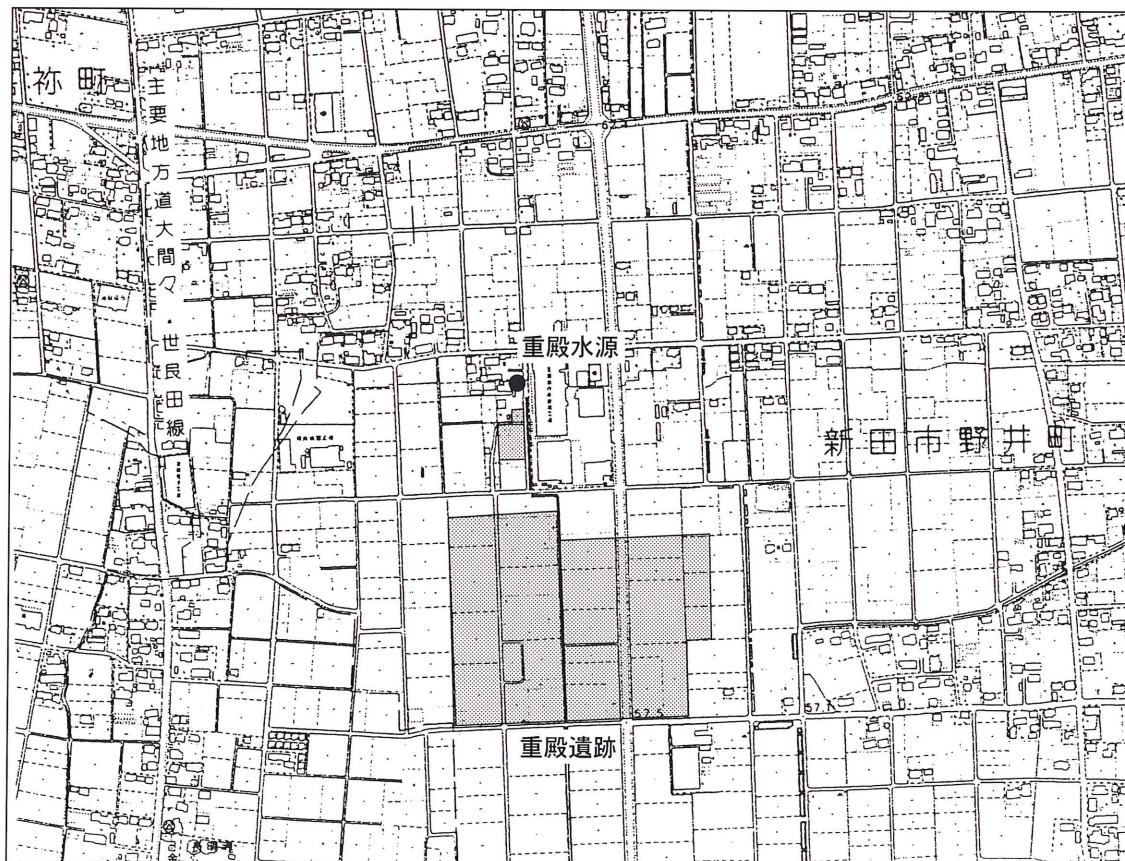
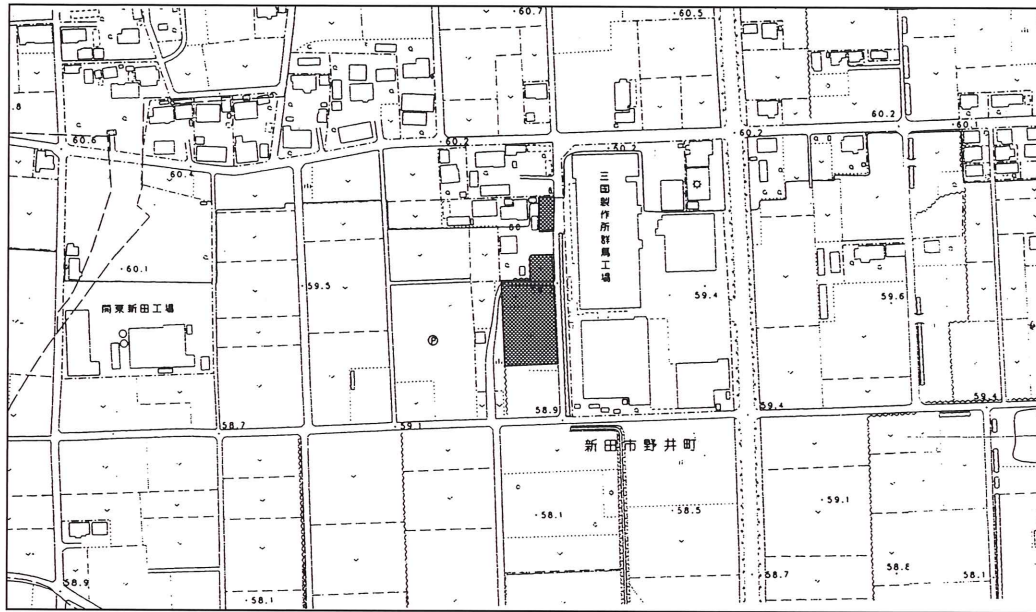
- ① 所在地 太田市強戸町2033番16他
- ② 調査面積 135㎡ (対象面積2,066㎡)
- ③ 調査原因 道路建設
- ④ 調査期間 平成18年1月27日～31日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向(2本)と南北方向(5本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ40～65cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



寺山古墳の範囲と調査区位置図

じゅうどのすいげんかんれん
25. 重 殿水源関連遺跡

- ① 所在地 太田市新田市新田町1462番2 他
② 調査面積 220㎡ (対象面積2,383㎡)
③ 調査原因 公園建設
④ 調査期間 平成18年1月23日～2月27日
⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向(6本)にトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ30～40cm)遺構の確認調査を行った。
⑥ 調査結果 溝5条、井戸1基が確認された。(詳細は第4章)



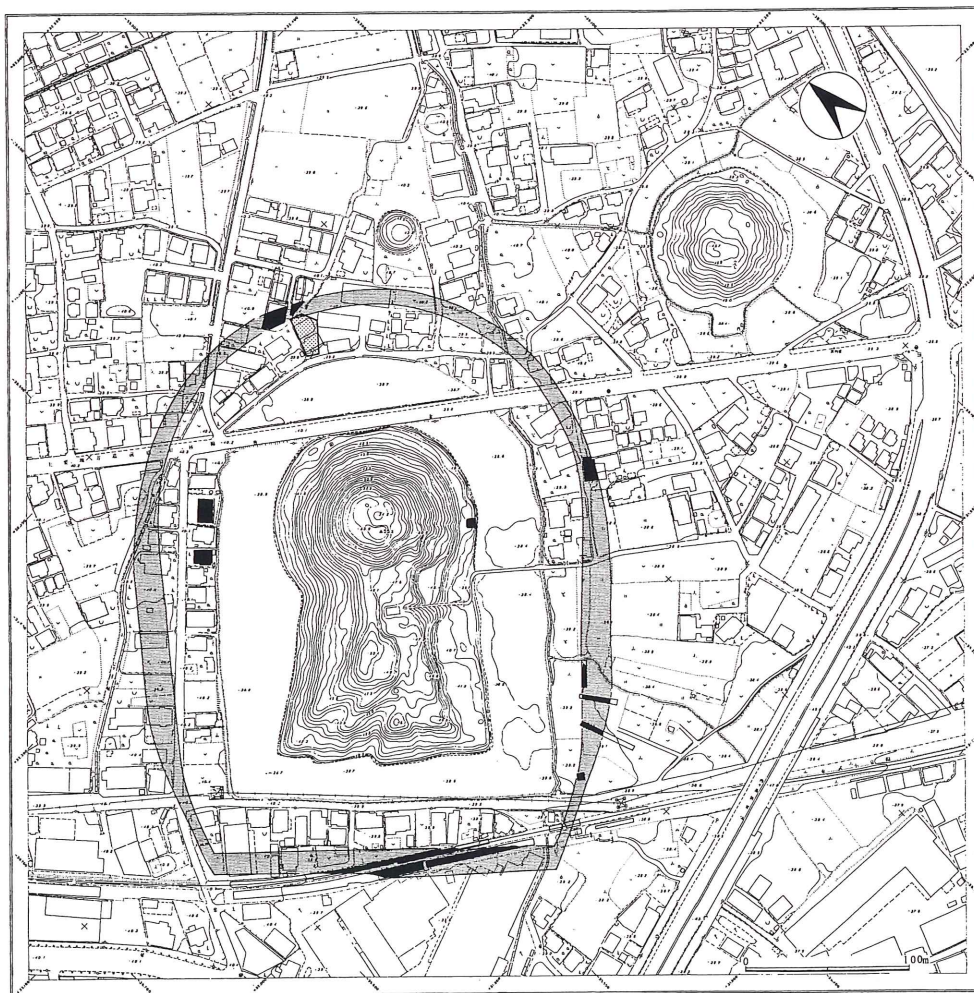
重殿水源と重殿遺跡の範囲と調査区位置図

第6章 ま と め

平成17年度に市内遺跡発掘調査の対象となった遺跡は25件あり、地域別には太田地域で12箇所、新田地域で7箇所、尾島地域で2箇所、藪塚地域で4箇所に分けられる。このうち遺構が確認されている6件は太田地域が4件、新田地域が1件、尾島地域が1件であった。調査地点は市内全域に広がっているが、渡良瀬川に面する毛里田地区や利根川に近接する世良田地区、また綿打地区など、市内でも端部における調査数が多かった。また、遺跡の内容確認調査としては、国指定史跡新田荘江田館跡（今回の報告からは除外）や、同じく国指定史跡新田荘重殿水源隣接地における確認調査を実施した。今回の調査では、遺構が確認された遺跡は少なかったものの、地下に埋没した旧地形を確認することで、それぞれの遺跡範囲の検討につながる成果も得られた。以下、調査した遺跡について簡単に触れてみたい。

天神山古墳(9)

天神山古墳は、五世紀中頃に造られた東日本最大級の前方後円墳として知られている国指定史跡（昭和16年1月27日指定）であり、200mほど東には女体山古墳（国史跡・昭和2年4月8日指定）が所在しており、近隣地にはこの他の大型古墳は所在しない。天神山古墳の外形は、三段築成の墳丘をもち、南北長210m、東西長150mの規模で、北東と西に陪塚とされる小円墳を配置している。外周には二重の周堀をもち、これらの



天神山古墳外堀想定図（■は調査地点）

周堀を含めた範囲は長さ364m、幅288mにも及んでいる。主体部は竪穴式で、すでに盗掘を受けており、くびれ部分の東側には神社があり、その脇に長持形石棺の一部が露出している。埴輪としては円筒、家形、水鳥形などが出土している。

現在のところ、古墳の周囲は市街化が進行しているため、道路整備関連工事や個人・集合住宅造成等の小規模な開発が多く、図に示した箇所においては二重の周堀部分が確認されている。今回の調査では、北西部の中堤帯部分に該当する調査が実施されているため、周堀等の確認とはならなかったが、今後もこの範囲内の開発については継続的に調査を実施していく予定である。

高林本郷遺跡(7)・高瀬前原遺跡(13)・源六堰遺跡(19)・梨子木遺跡(20)・桑木島遺跡(21)

太田地域に所在する高林本郷遺跡と高瀬前原遺跡は、調査地点がいずれも遺跡地内の南端部に位置し、トレンチ調査では遺構確認面で粘質土が検出され遺物も確認されていない。このことから、両者とも遺跡の範囲が北へ縮小される可能性が高い(遺跡範囲想定図参照)。また、新田地域に所在する源六堰遺跡、梨子木遺跡、桑木島遺跡の3遺跡は、いずれも道路建設予定地であり、遺跡地図上では境界線上に当たる区域であったため試掘調査を実施した。源六堰遺跡は、南北に長い範囲に広がる遺跡で、調査地はこの遺跡の最南端に位置しており、トレンチ調査では沖積地が確認されたため、遺跡の範囲を北へ縮小する必要性が出てきた。また、梨子木遺跡でもトレンチ調査では沖積地が確認されているため、遺跡の北側の範囲についての縮小を検討する必要がある。さらに桑木島遺跡においては今まで調査歴がなく、遺跡の東側に当たる境界線上となる南北トレンチ調査の結果では、南側半分では粘性ロームが確認されているため、土地が低くなっていることが確認された。逆に北に向かってはローム確認面が高くなっており、台地が北西部に形成されている状況が確認できたため、南側の遺跡の範囲については広範囲に縮小する可能性が出てきた。以上の5遺跡についてはいずれも遺構・遺物が確認されず、旧地形の状況から遺跡の範囲の縮小が予想されるものである。今後、近隣地の調査結果を待って遺跡の範囲を確定していきたい。

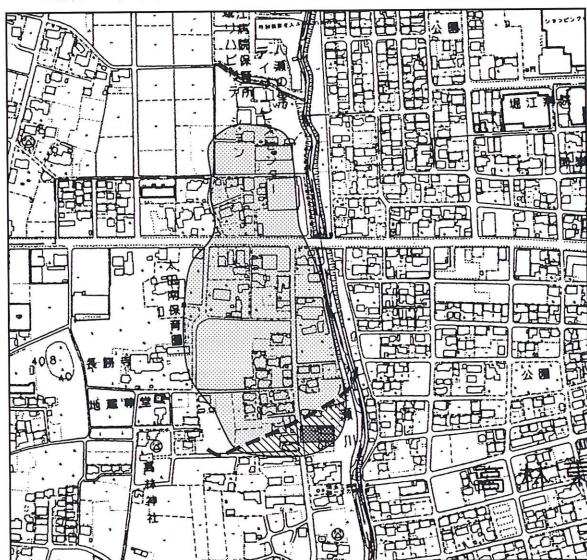
尾島東部地区遺跡群(23)

尾島東部地区遺跡群は、旧尾島町であった平成13年度より区画整理組合の計画に基づいて、試掘調査を実施してきた。今回の調査は太田市としては初めての調査となるが、5年目となる。調査対象地はいずれも区画整理地内の道路建設部分となるが、今回の調査地点は4箇所であった。結果的には、土坑1基と検出遺構は少なかったものの3箇所の調査地点において、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流(仮称FP泥流)で覆われていることが確認できた。また、FP泥流の土層断面より、この地でよく確認されている地震噴砂・地割れ(断層)の痕跡が検出された(写真参照)。この地震噴砂・地割れは、『類聚国史』に記載されている弘仁9(818)年の地震に起因するものと推定される。弘仁9年の地震の痕跡が検出された尾島地区の主な遺跡としては、世良田諏訪下遺跡(洪水層下水田跡・畠跡、地割れ、陥没)、安養寺森ノ内遺跡(噴砂)・粕川新堀下遺跡(洪水層下畠跡)、岩松千歳2遺跡(噴砂)などが挙げられる。

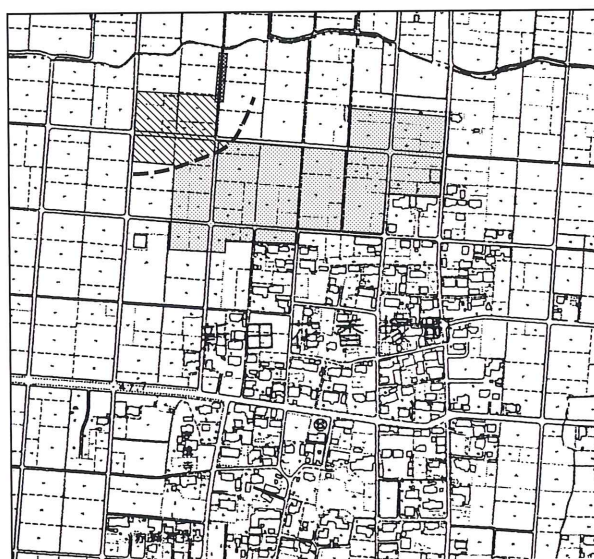
重殿水源関連遺跡(25)

重殿水源は新田荘遺跡の1つとして平成12年11月に国指定史跡に指定された遺跡である。本遺跡は新田地域内にある大間々扇状地の端部にあたる地点で、古くより湧水点として知られてきた場所のひとつである。800m西には、同じ新田荘遺跡矢太神水源(石田川1級河川の源流)が所在し、東側には「一の字池」などの湧水点が带状にほぼ直線的に点在している。「関東裁許状」によれば、この水脈の下流にて水騒動のあった記録があり、新田荘を支えてきた水源として指定を受けている。今回の確認調査は、この指定地の南側に近接する土地の公有地化に伴い史跡整備等の計画も踏まえて、水路関連の遺構等の所在を確認する目的で実施し

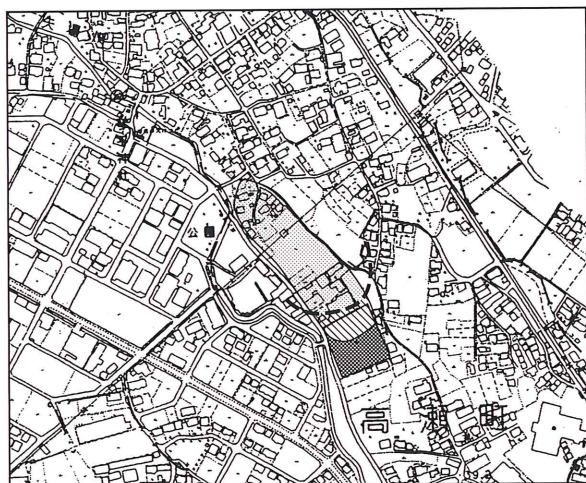
遺跡の範囲を縮小する遺跡



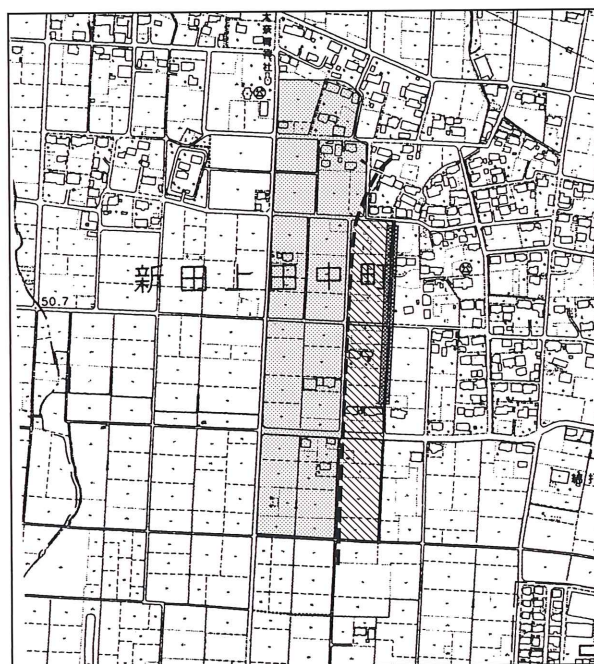
高林本郷遺跡



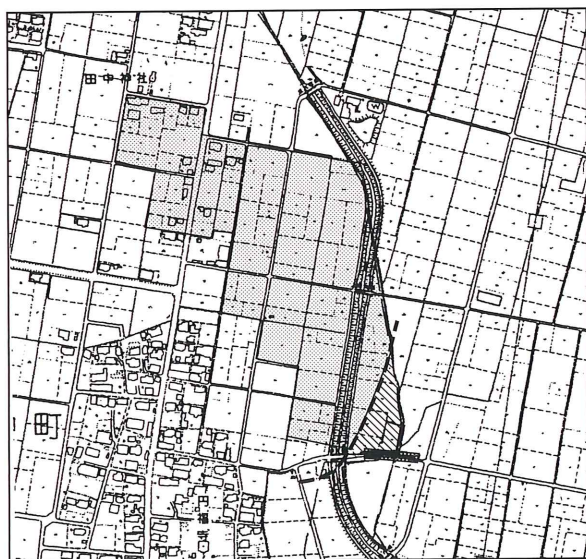
梨子木遺跡



高瀬前原遺跡



桑木島遺跡

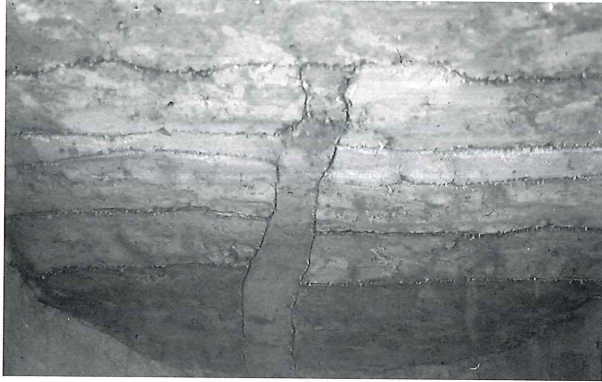


源六堰遺跡

遺跡の範囲と縮小する遺跡



東部地区遺跡群①地点検出の地割れ（断層）



東部地区遺跡群②地点検出の地割れ（断層）の拡大写真



東部地区遺跡群③地点検出の噴砂

た。現在の重殿水源の流路は、指定地内の南端部よりやや東側に所在する南北の水路に流れ出しており、東側に所在する工場の排水路としても利用されている。調査対象となった区域の南側隣接地については、平成16年度に新田町教育委員会で確認調査を実施しており、溝等が検出されている。今回の調査では、この南側の調査地に続くものとして北側から延びる溝が確認されたが、一番北側のトレンチ（5・6トレンチ）では西側に低地へと移行するような地形が確認されており、その状況からも水源より直接流れ出していた流路が、この西側の低地へと流れ出している可能性が出てきた。これらの存在が、調査区の西側ではどのようなになっているのか、今後調査を継続していく必要がある。

おわりに

平成17年度の調査では、25箇所についての調査報告を行ったが、このうち遺構が確認された遺跡は6箇所、住居が確認された遺跡は1箇所であった。遺跡地内でありながら、遺構・遺物が確認されない場合や沖積地が埋没していたような事例も多く、今回の報告では5箇所の遺跡において遺跡の範囲の検討ができた。また、開発が進行していく中で、天神山古墳や重殿水源のように、継続的に遺跡の内容を確認していかなければならない遺跡も数多く所在している。このように、市内遺跡発掘調査では地点ごとの調査データを蓄積していくことで、遺跡の全体像を明らかにしていくことが大きな目的といえる。今後も周辺の調査と関連させて、遺跡の正確な把握とその保護に務めていきたい。

最後に調査に際してご協力いただいた事業主の方々、ならびに寒暖の中で発掘調査に従事された方々に深く感謝の意を表したい。

- 〈参考文献〉 太田市教育委員会 「埋蔵文化財発掘調査年報」 平成4年度 1994
 太田市教育委員会 「埋蔵文化財発掘調査年報」 平成6年度 1996
 尾島町教育委員会 「世良田諏訪下遺跡」 平成9年度 1998
 尾島町教育委員会 「粕川新堀下遺跡」 平成11年度 2000
 新田町教育委員会 「新田町内遺跡Ⅶ」 平成16年度 2005

報告書抄録

フリガナ	オオタシナイイセキハックツチョウサハウコクショ
書名	太田市内遺跡2
副書名	平成17年度調査
巻次	—
シリーズ名	—
シリーズ巻名	市内遺跡
編集著者名	小宮 豪、須永光一
編集機関	太田市教育委員会
編集機関所在地	〒370-0495 群馬県太田市粕川町520 TEL 0276-20-7090
発行年	平成19年3月28日
所収遺跡	向野遺跡ほか市内の遺跡24箇所

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
向野 重殿水源関連	集落	古墳～平安 中世	住居 溝	なし なし	史跡近接地

太田市内遺跡 2

平成19年 3 月24日 印刷

平成19年 3 月28日 発行

編集・発行 群馬県太田市教育委員会

群馬県太田市粕川町520

電話 0276-20-7090

印刷 朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町 67
